

X. 授業計画

X - I 1 年 A ・ B クラス

科目名	オリエンテーション	担当教員		学科内部教員	
学年・学期	1年・前期	時間数	20	単位数	1

授業概要

学校生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識や学校の規則、各種手続きについて学ぶ。

授業目標

学生・社会人として基本的なマナーを学び、学校生活を有意義に送るための知識やスキルを身につける。

授業計画

1	ホームルーム 学校生活の心構えについて
2	ホームルーム 学校生活の心構えについて
3	ホームルーム 学校生活の心構えについて
4	ホームルーム 学校生活の心構えについて
5	ホームルーム 学校規則・各種手続きについて
6	ホームルーム 学校規則・各種手続きについて
7	ホームルーム 学校規則・各種手続きについて
8	ホームルーム 学校規則・各種手続きについて
9	ホームルーム 学校規則・各種手続きについて
10	ホームルーム 学校規則・各種手続きについて
成績評価法	出席率・聴講態度
使用テキスト	
備 考	

科目名	英語	担当教員		藤田 明男 先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

本科は日常で使う為のリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングのコミュニケーション活動を通して4つの基礎的な技能を学ぶ

授業目標

基本的な英語の仕組みを理解し日常の場で少ない単語で会話ができるようにする

授業計画

1	英語の仕組みとbe動詞及び一般動詞の肯定文・否定文・疑問文
2	一般動詞の現在進行形と疑問文
3	疑問詞 when/where/who/what/why/how
4	規則動詞と不規則動詞、be going to+動詞の原形
5	未来形will、助動詞と命令文
6	不定詞と定冠詞、単数形と複数形、可算名詞と不可算名詞
7	代名詞と意味のないIt
8	getとhave、doとmake
9	Let'st動詞の原形、Shall I+動詞の原形
10	someとany、all・most・some・any、no/none
11	everyとall、not any+代名詞/not+名詞/not～but
12	both、either、neither
13	a lot/much/many、(a) littleと(a) few
14	レビューと小テスト
15	試験
成績評価法	小テスト及び受講態度と筆記試験
使用テキスト	New Horison1. 2. 3、マーフィーのケンブリッジ英文法
備 考	

科目名	ビジネスマナー	担当教員		島村定充 先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

国際化の中で、日本独自のしきたりや習慣を理解し、他者に説明できる知識を持ち、それを多文化意識として学習する。マナーとは何かを考え、多様化するビジネスマナーを身に着け、実践できるようにする。

授業目標

ビジネス・シーンに必要な基本的マナーの学習を通してコミュニケーション力の向上を図るとともに、実社会で即戦力となりうる人材の育成を目指す。社会人に求められる常識、言葉遣いと話し方、接客対応を習得する。

授業計画

1	オリエンテーション、「仕事」とは何か
2	社会と組織
3	仕事と成果
4	一般知識
5	ビジネスコミュニケーション
6	社会人にふさわしい言葉遣い①
7	ビジネス文書の活用
8	職場のマナー
9	社会人にふさわしい言葉遣い②
10	来客応対
11	電話応対
12	交際業務
13	文書類の受け取りと発送
14	社会人にふさわしい言葉遣い③
15	試 験
成績評価法	受講態度30%、中間試験30%、期末試験40%を目安に総合的に評価
使用テキスト	必要に応じてレジュメを配布する
備 考	受講者の理解度により、講義の順番や重点を変えることがある。

科目名	ビジネス英会話	担当教員		藤田 明男 先生	
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

本科は仕事で使う為のリスニング・スピーキングを中心にビジネス英語の初級レベルを学ぶ。

授業目標

仕事や日常の場で外国人とコミュニケーションを取る力を養い、相手の言うことをゆっくりでも理解し基礎的な会話ができるようにする。

授業計画

1	初対面の人との成熟した大人としての接し方	1
2	初対面の人との成熟した大人としての接し方	2
3	たまに会うような人といい関係を築いていくために	1
4	たまに会うような人といい関係を築いていくために	2
5	たまに会うような人といい関係を築いていくために	3
6	いつも会うような人と互いにリスペクトしあうために	1
7	いつも会うような人と互いにリスペクトしあうために	2
8	いつも会うような人と互いにリスペクトしあうために	3
9	いつも会うような人と互いにリスペクトしあうために	4
10	ごく頻繁に接する人と信頼しあえるコミュニケーションを取っていく為に	1
11	ごく頻繁に接する人と信頼しあえるコミュニケーションを取っていく為に	2
12	ごく頻繁に接する人と信頼しあえるコミュニケーションを取っていく為に	3
13	ごく頻繁に接する人と信頼しあえるコミュニケーションを取っていく為に	4
14	ごく頻繁に接する人と信頼しあえるコミュニケーションを取っていく為に	5
15	試験	
成績評価法	小テスト及び受講態度と筆記試験	
使用テキスト	英会話ペラペラビジネス100 株式会社アルク	
備 考		

科目名	職業指導 I	担当教員		島村定充 先生	
学年・学期	1年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

「自分らしい生き方における、自分らしい働き方」を見つけるために、学生が主体的に進路選択について考え、働くことの意味を理解し、自らのワーク・ライフ・インテグレーションを確立できるようにする。

授業目標

日本独自の慣行を理解し、進路指導(職業指導)について各学生の進路とあわせてその課題と望ましい在り方について考えていく。

授業計画

1	オリエンテーション・日本における就職活動
2	働く意味を考える 何のために働くのか
3	働く意味を考える 社会のしくみ
4	働く意味を考える 働き方と働かせ方
5	キャリアについて考える 1
6	キャリアについて考える 2
7	自分の軸を考える 本当の自分は？
8	自分の軸を考える 人生について考える
9	希望について考える
10	社会が求めていることを考える 社会人基礎力とは？
11	社会が求めていることを考える 成果主義とは？
12	職業を考える 適職と天職
13	職業を考える 簡易業界・職業研究
14	職業を考える 簡易企業・職種研究
15	まとめ
成績評価法	受講態度30%、課題30%、実技・発表40%を目安に総合的に評価
使用テキスト	必要に応じてレジュメを配布する
備 考	受講者の理解度により、講義の順番や重点を変えることがある。

科目名	コンピュータ基礎	担当教員		東 正次郎先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

Windows (OS基本ソフト) の基本的な操作を習熟し、Word (文書作成ソフト) の基本的な使い方を学ぶ

授業目標

- ①パソコンの基本的な操作を習得する。
- ②Wordで簡単な資料を作れるようになる。

授業計画

1	パソコンとWordの基本知識
2	日本語入力①文字の入力、日本語の入力と漢字変換
3	日本語入力②IMEパッド、日本語の入力の演習
4	文字書式の設定
5	段落書式の設定
6	検索・置換とコピー・貼り付けの操作
7	表の作成と編集
8	画像の挿入①
9	画像の挿入②画像の挿入の演習
10	図形の作成
11	ワードアートの挿入
12	グラフの作成
13	SmartArtの挿入
14	ページ設定と印刷、総合問題演習
15	試験
成績評価法	平常点40点、試験60点
使用テキスト	プリント【留学生のためのWindows基礎、Word (Word2019対応)】
備 考	

科目名	ビジネス文書演習	担当教員		東 正次郎 先生	
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

統合型表計算ソフト「Excel」の操作

授業目標

- ①Excelの基本操作を習熟する。
- ②「Excel」を利用して、表計算からグラフ作成、データ管理までのさまざまな機能を習得する

授業計画

1	Excelの基礎知識
2	データの入力①データの種類と表示形式、フォントの書式設定
3	データの入力②オートフィル、演習
4	表の作成
5	数式とセル参照
6	関数1 (オートSUM)
7	関数2 (関数IF)
8	グラフの作成①棒グラフ、グラフ要素の確認、円グラフ
9	グラフの作成②折れ線グラフ、演習
10	印刷ページの設定
11	抽出と並べ替え
12	条件付き書式とスパークライン
13	図形と画像
14	総合問題演習
15	試験
成績評価法	平常点40点、試験60点
使用テキスト	プリント【留学生のためのExcel (Word2019対応)】
備 考	

科目名	国際関係論	担当教員		尾田 裕加里 先生	
学年・学期	1年・前・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

「国際関係」の基本から、地域別現況までを知る

授業目標

「国と国とのつながり」という超基本項目から、21世紀の難題である「新たな戦争」や「地域温暖化問題」や「地球温暖化問題」までを理解し、やさしい日本語で論じられるようになること
--

授業計画

1	国と国のつながりの基本について
2	国際関係がどう築かれるかについて
3	世界の国々と日本の関わりについて
4	国連の役割について
5	世界の主な「同盟」や「協定」について
6	日本の国際関係について
7	アメリカの国際関係について
8	新興国(ASEAN、BRICs等)の国際関係について
9	EUの国際関係について
10	発展途上国の国際関係について
11	グローバルリゼーションについて
12	新たな国際主体(国際機関と非政府組織)について
13	21世紀の難題(新たな戦争、地球温暖化等)について
14	日本他各国(ネパール、バングラディシュ、スリランカ等)の課題を考える
15	試験 習ったことについて、論じる(記述式)
成績評価法	採点者の試験評価
使用テキスト	坂東太郎著『国際関係の基本がイチからわかる本』2017 眞淳平著『地図で読む国際関係入門』2019
備 考	

科目名	経営学	担当教員		雨宮 一彦 先生	
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

私たちが社会生活をしていく上で社会(企業)とは密接な関りがあります。経営学では、社会における会社経営のありかたや会社の組織、構造および生産、販売、戦略など会社経営のプロセスについて学習します。

授業目標

- (1) 会社とは何かを説明できる。 (2) 会社の組織形態について説明できる。
 (3) 経営戦略について説明できる。 (4) 損益分岐点について説明できる。
 (5) 経営管理について説明できる。 (6) 経営分析について説明できる。

授業計画

1	経営学とはどのような学問なのか
2	経営組織
3	職能別組織と事業部制組織
4	株式会社とは何か
5	親会社と子会社
6	ホールディングスとM\$A
7	株式と投資
8	経営戦略
9	経営分析
10	変動費・固定費・損益分岐点
11	マーケティング経営管理
12	製品のライフサイクル
13	環境ビジネス
14	経営リスクマネジメント
15	試験
成績評価法	試験の成績、受講の態度、授業への出席率で総合的に評価する。
使用テキスト	随時プリントを配布するので保管しておくこと。
備 考	

科目名	日本語表現法	担当教員		伊藤 美恵子 先生	
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

『読む・書く・話す』を適切にできるように複数の教材を組み合わせでコミュニケーション力を養う

授業目標

得意・不得意や好き嫌いなど個人差・バラつきがあっても、様々な課題(読む・聞く・書く・話す)に取り組む中で、総合的なコミュニケーションスキルの向上を目指す
--

授業計画

1	読む、書くを中心にプリントを用意 文法、単語、フレーズ 聞く・日本の習慣などを中心にプリントを用意 以下同じ組み合わせで難易度を調整
2	シャドーイング、名作童話① (CDと音読)
3	文法、単語、フレーズ
4	シャドーイング、名作童話② (CDと音読)
5	文法、単語、フレーズ
6	シャドーイング、名作童話③ (CDと音読)
7	文法、単語、フレーズ
8	シャドーイング、名作童話④ (CDと音読)
9	文法、単語、フレーズ
10	シャドーイング、名作童話⑤ (CDと音読)
11	文法、単語、フレーズ
12	シャドーイング、名作童話⑥ (CDと音読)
13	文法、単語、フレーズ
14	シャドーイング、名作童話⑦ (CDと音読)
15	試験
成績評価法	出席・平常点・テストの点を総合的に評価する
使用テキスト	明日から使える慣用句(京都書房) 日本の大和言葉を美しく話す(東邦出版) 話そう考えよう日本事情(スリーエーネットワーク) 国語文法事典(ベネッセ) 国語をひとつひとつわかりやすく(学研) 春ちゃんのおつかい(東海学院)
備 考	

科目名	衛生管理	担当教員		雨宮 一彦 先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

食生活において飲食物の摂取は、人間が生きていくうえで欠かせないことである。飲食料品の製造に携わる従事者は人々へ安心して安全な食品を提供することが使命である。しかし、従業員自身も衛生的で安全な労働環境で仕事をしなければならない。衛生管理では食品衛生と労働安全の知識と技能について学習する。

授業目標

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| (1) 食品における危害要因について説明できる。 | (2) 食中毒の種類について説明できる。 |
| (3) 食中毒の予防法について説明できる。 | (4) HACCPについて説明できる。 |
| (5) 食品製造工程別衛生管理について説明できる。 | (6) 労働安全について説明できる。 |

授業計画

1	食品製造業の種類
2	食品衛生とは
3	飲食物を介しての健康危害要因
4	食中毒の種類
5	細菌性毒素型食中毒
6	細菌性感染型食中毒
7	ウイルス性食中毒
8	寄生虫による食中毒
9	食中毒予防の3原則
10	H A C C P
11	手指衛生と手洗いの重要性
12	食品を介しての健康危害の実例
13	食品製造工程における衛生管理
14	食品製造工程における労働安全
15	試験
成績評価法	試験の成績、受講の態度、授業の出席率で総合的に評価する。
使用テキスト	随時プリントを配布するので保管しておくこと。
備 考	

科目名	医療管理総論	担当教員	町田 一哉 先生
学年・学期	1年・前期	時間数	30
		単位数	1

授業概要

電子化された診療録を用いて、医療機関の各種システムと連携について理解する
医療DXについて理解する

授業目標

医療機関におけるコンピュータを利用した診療情報処理を理解する
医療機関における診療情報の流れに触れ、病院のシステムがどのように繋がっているか理解する

授業計画

1		1-1 医療関連法規
2		1-1 医療関連法規
3	1. 医療制度と医療関連法規	1-2 保健医療福祉制度と行政組織 1-3 保健医療福祉専門職の種類と責務
4		1-4 健康指標と予防医学 1-5 救急医療と災害時医療
5	2. 病院業務と病院の運営管理	2-1 病院における診療体制と業務 2-2 診療の過程
6		2-3 病院の運営と管理 2-4 安全で適切な医療
7		3-1 診療記録の種類と保存期間
8	3. 医療情報の特性と医療の情報倫理	3-1 診療記録の種類と保存期間 3-2 医療情報の特性と利用
9		3-3 医の倫理 3-4 医療の情報倫理
10	4. 情報システムの基盤技術	4-1 情報セキュリティの脅威と対策 4-2 ユーザー管理
11		5-1 病院情報システム
12	5. 医療情報システムの構成と機能	5-2 地域医療情報システムと保健福祉情報システム 5-3 医療情報システムの管理
13		6-1 医療情報の標準化
14	6. 医療情報の標準化と活用	6-1 医療情報の標準化 6-2 情報の分析と評価
15	試験	
成績評価法	最終試験の結果・出席状況・小テストの結果を合わせて評価	
使用テキスト	医療情報の基礎知識 第15～20回医療情報基礎知識検定試験問題付/一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会 医療情報システム入門2023 単行本/一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 JAHIS (編集)	
備 考		

科目名	医学用語演習	担当教員		上杉 洋一 先生	
学年・学期	1年・前期・後期	時間数	60	単位数	2

授業概要

今日の医学エビデンスに基づき、生活に関連した医学知識を学び、人体に興味を持てる様にする。

授業目標

今日の医学知識を学び、自分自身と家族や知人が健康にすこやかに生活できる様になってほしい

授業計画

1	基礎医学用語（からだに関する用語）
2	解剖学によく出る漢字と概念
3	進化論と創造論
4	ファクトフルネス
5	遺伝子は語る
6	人類のルーツ ミトコンドリア DNA
7	古代人の宇宙観、地動説
8	言語の由来、古代地球歴史
9	地球誕生 45億年 痕関器官
10	自然淘汰、遺伝情報のプログラマー
11	恐竜とダーヴィン
12	薬物乱用とは
13	身体依存と精神依存
14	渇望の特性
15	薬物を使いがちな状況
16	奇跡の国 日本
17	認知行動療法
18	脳のしくみ

19	脳内ホルモン セロトニンとメラトニン
20	オキシトシン・ドーパミン
21	アドレナリンとノルアドレナリン、エンドルフィン
22	sexと関わる4大ホルモン
23	なぜ人には性欲があるか?
24	パフォーマンスが高まる脳の状態
25	ドーパミンをドバドバ出してやる気を出す方法
26	感情をコントロールする方法
27	栄養素と健康
28	体温と健康
29	免疫と白血球
30	試験
成績評価法	出席50点 試験50点の計100点満点のうち60点で合格
使用テキスト	教員持参テキスト
備 考	

科目名	通訳理論と技術	担当教員		増田 博道 先生	
学年・学期	1年・前期・後期	時間数	60	単位数	2

授業概要

医療通訳 本テキストにそって授業

授業目標

専門職の確立に向けて

授業計画

1	訳すということ
2	文化をどう訳すか
3	通訳が担う責任
4	等価なメッセージとは
5	言語用域 (レジスタ)
6	三者二者言語モデル
7	対話通訳と相互作用
8	対話のコミュニケーションとは
9	質の高い通訳とは
10	医療通訳とは
11	日本における役割
12	日本における歴史
13	専門職の確立に
14	母国と第二言語
15	通訳に必要な通訳
16	シャドーイング
17	トランスクリプション
18	ランキング

19	通訳者として基本的人権の尊重
20	守秘義務
21	忠実性と正確性
22	中立・公平
23	役割の境界を明確にする
24	プライバシーへの配慮
25	異文化理解
26	礼儀とマナー
27	アドボカシー
28	医療従事者の発話
29	情報の収集方法
30	試験
成績評価法	ペーパーテスト
使用テキスト	医療通訳
備 考	

科目名	人体構造・機能論	担当教員		上杉 洋一 先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

解剖学の基本をやさしく解説し構造や様々な働きを考える

授業目標

人の体（自分の体）を改めて考え、「なんで」「どうして」と疑問を持たせ、理解・納得すると、体って上手くできていると感心させたい。

授業計画

1	細胞と器官
2	筋肉 骨格筋、心筋と平滑筋
3	骨の働き 5つの機能・形と構造
4	血液の循環
5	心臓の働き・リンパ節とは
6	呼吸のメカニズム
7	消化器系、小腸の仕組み
8	腎臓で尿生成
9	ホルモンとは
10	感覚器とは
11	神経の仕組み
12	脳の働きと構造
13	交感神経と副交感神経
14	生殖器の働き
15	試験
成績評価法	出席50点・試験50点の100点満点で評価（60点で合格）
使用テキスト	㈱ナツメ社 史上最強図解これならわかる！解剖学
備 考	

科目名	医療関係法規概論	担当教員		小林 憲人 先生	
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

一般法規、医療関係法規及び公的医療保険制度の解説と問題演習。

授業目標

一般法規、医療関係法規及び公的医療保険制度の基礎知識を身につける。

授業計画

1	法の概念 法律一般
2	法の概念 法律一般
3	医療法総論 保険医療提供体制
4	医療法総論 保険医療提供体制
5	医療法各論 医療情報の提供
6	医療法各論 医療情報の提供
7	医療法各論 医療法の改正
8	医療法各論 医療法の改正
9	医療従事者に関する法規
10	医療従事者に関する法規
11	衛生法規
12	衛生法規
13	公的医療保険制度
14	公的医療保険制度
15	試験
成績評価法	定期試験の結果、授業態度、出席による総合評価
使用テキスト	講義当日に、適宜、レジュメを配布する。
備 考	

科目名	看護基礎学	担当教員		佐々木 順承 先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

介護に関係した身体の構造と機能に関する基本的な知識を習得できる学びとする。

授業目標

移動・移乗、食事、入浴、清潔保持、排泄、着脱、整容、睡眠などに関連するからだのしくみなど、介護職が支援を行う際に前提となる身体の機能と構造について理解することができる。また、障害の理解を深めたうえで、障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識と特性に応じた支援を習得することができる。

授業計画

1	こころの理解
2	からだのしくみの理解
3	からだの基本構造
4	休息、睡眠に関するからだのしくみ
5	老化の理解
6	高齢者に多い症状と病気の特徴
7	高齢者に多い症状
8	高齢者に多い病気
9	障害の理解
10	障害の種類、原因と特性
11	認知症の理解
12	認知症ケアのポイント
13	認知症の主な原因疾患と症状
14	認知症のある人の介護
15	試験
成績評価法	筆記試験
使用テキスト	資料配布
備 考	

科目名	看護用語 I	担当教員			
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

介護を必要とする対象者の生活支援を行うため、介護の実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能の理解を目指す。

授業目標

- ・介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解することができる
- ・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみについて理解することができる

授業計画

1	こころのしくみの理解（人間の欲求の基本的理解）
2	こころのしくみの理解（自己実現と生きがい）
3	からだのしくみの理解（生命の維持・恒常のしくみ）
4	からだのしくみの理解（体温、呼吸、脈拍、血圧）
5	人体部位の名称と機能（神経系）
6	人体部位の名称と機能（筋骨格系）
7	人体部位の名称と機能（感覚器系）
8	人体部位の名称と機能（呼吸器系）
9	人体部位の名称と機能（循環器系）
10	人体部位の名称と機能（消化器系）
11	人体部位の名称と機能（泌尿器系）
12	人体部位の名称と機能（内分泌系）
13	人体部位の名称と機能（免疫系）
14	休息、睡眠に関するからだのしくみ
15	試験
成績評価法	定期試験60％ レポート・提出物20％ 授業への取り組み20％
使用テキスト	プリント配布
備 考	

科目名	看護助手知識	担当教員			
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識を見につけ、利用者の自立に向けた生活支援のために、状況に合わせた介護技術を選択・活用することができる判断力の取得を目指す

授業目標

- ・様々な生活場面において自立支援の観点から根拠に基づいた介護実践を行うことができる
- ・利用者の自立した生活支援のために、状況に合わせた介護技術を選択・活用することができる

授業計画

1	移動の意義と目的
2	移動の生理的意味、重心の移動とバランス
3	姿勢・立位の保持のしくみ、立位・座位保持のしくみ
4	機能の低下・障害が及ぼす移動への影響
5	体位変換、起居の介助、安楽な体位
6	歩行の介助、車いすの介助、移動に用いる福祉用具、介助の留意点
7	食事の意義と目的
8	食事の生理的意味、食べるしくみ
9	機能低下・障害が及ぼす食事への影響
10	食事の姿勢、食事の介護の流れ、状態に応じた食事の介護
11	食事に用いる福祉用具、介助の留意点
12	排泄の意義と目的
13	排泄の生理的意味、排泄のしくみ、機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響
14	排泄の介護の流れ、排泄に用いる福祉用具、介助の留意点
15	試験
成績評価法	定期試験60％ レポート・提出物20％ 授業への取り組み20％
使用テキスト	プリント配布
備 考	

科目名	総合日本語	担当教員		木原 敦 先生	
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

苦手分野の対策、現状、漢字・語彙の復習
模試スタイルの練習とポイント解説

授業目標

JLPT N3合格率UP
4技能を使ってN3レベルのコミュニケーションができる

授業計画

1	重要な文法項目、総合問題 授業のすすめ方
2	課題分野の反復練習 ① 読解 情報、チラシ
3	課題分野の反復練習 ② 読解 説明文、意見文
4	課題分野の反復練習 ③ 読解 エッセイ、小説
5	課題分野の反復練習 ④ 読解 新聞
6	課題分野の反復練習 ⑤ 読解 論説文
7	模試スタイルテスト TOTAL問題、解説 ①
8	模試スタイルテスト TOTAL問題、解説 ②
9	模試スタイルテスト TOTAL問題、解説 ③
10	課題作成 作文
11	傾向と対策 直前ポイント指導 ① 頻出単語
12	傾向と対策 直前ポイント指導 ② 接続詞 指示詞
13	傾向と対策 直前ポイント指導 ③ 副詞 数詞
14	傾向と対策 直前ポイント指導 ④ 文法
15	試験
成績評価法	出席率/テスト/課題
使用テキスト	ポイントアンドプラクティス 模試と対策Vol2
備 考	

科目名	文法・文法対策	担当教員		中條 秀憲 先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

この授業では、日本語能力試験 (JLPT) N2、N3レベルの文法を学び、試験対策を行います。文法の理解を深めるだけでなく、実際の会話や文章の中で適切に使えるようにすることを目指します。

授業目標

- 1、N2、N3レベルの文法項目を理解し、正しく使えるようになる。
- 2、文法を活用した文章作成や会話ができるようになる。
- 3、JLPT対策問題を解く力を養い、合格を目指す。
- 4、ペアグループやグループ活動を通して、実践的な日本語力を向上させる。

授業計画

1	オリエンテーション N3、文法復習① (基本文)
2	N3 文法復習② (接続詞、助詞)
3	N3 文法復習③ (受身、使役、可能)
4	N2 文法① (～ものだ、～ことにするなど)
5	N2 文法② (～わけだ、～わけではない、など)
6	N2 文法③ (～によると、～に違いない、など)
7	N2 文法④ (～ばかり、～がちなど)
8	N2 文法⑤ (～つつある、～かねないなど)
9	N2 文法⑥ (～ことから、～に基づいてなど)
10	実践演習① (読解問題)
11	実践演習② (聴解問題)
12	実践演習③ (文法・語彙問題)
13	模擬試験① (時間配分・解き方のコツ)
14	模擬試験② (総復習、弱点克服)
15	試験
成績評価法	筆記、リスニングテスト
使用テキスト	日本語総まとめN3、文法、アスク出版1,200円
備 考	

科目名	文字表記・文字語彙	担当教員		木原 敦 先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

基本、N3レベルの漢字、語彙の復習、頻出単語の勉強でのJLPT対策※読解対策を含む

授業目標

- ・ JLPT N3合格率UP
- ・ N3レベルの漢字、語彙を使って日常やアルバイトでのコミュニケーションを円滑にする

授業計画

1	場面でかける①駅	重要語彙①
2	②地図	②
3	③病院	③
4	④困った時は	④
5	場面 使う ①消費期限	⑤
6	②コピー機 留守番電話	⑥
7	③自動販売機	⑦
8	場面 かう ①注文	⑧
9	②申込書	⑨
10	③広告メール	⑩
11	④通信販売	⑪
12	場面 かく ①健康診断	⑫
13	②アンケート	⑬
14	総復習	
15	試験	
成績評価法	出席率/テスト成績	
使用テキスト	日本語総まとめ N3. 漢字 読解マスター	
備 考		

科目名	産業ビジネス I	担当教員		島村定充 先生	
学年・学期	1 年 前期・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

飲食料品製造業食品工場などで働くために必要な食品安全と品質管理の知識の習得を目指すとともに、労働安全衛生を現場で実践できるようにすることを目的とする。

授業目標

一般的な衛生管理の基礎を学習することで職業選択の幅を広げられるようになるほか、労働安全衛生に関する正しい知識を得ることで労働災害のリスク回避が出来るようになることを目指す。

1	ガイダンス 講義方法及び内容、評価についての説明
2	食品安全・品質管理の基本的な知識 ①食品安全の必要性
3	食品安全・品質管理の基本的な知識 ②食中毒に関する基礎知識
4	一般的衛生管理の基礎 ①原材料の受入れと保管
5	一般的衛生管理の基礎 ②調理器具などの洗浄・消毒・殺菌
6	製造工程管理の基礎 ①製造工程の管理と注意事項
7	製造工程管理の基礎 ②製品の管理
8	製造工程管理の基礎 ③アレルギー物質の管理
9	HACCPによる衛生管理 ①危害要因分析
10	HACCPによる衛生管理 ②H A C C P 7 原則
11	HACCPによる衛生管理 ③H A C C P 衛生管理の基本
12	労働安全衛生に関する知識 ①職場の危険防止対策
13	労働安全衛生に関する知識 ②作業手順と 5 S の励行
14	労働安全衛生に関する知識 ③異常事態発生時の対応など
15	試 験
成績評価法	受講態度30%、中間試験30%、期末試験40%を目安に総合的に評価
使用テキスト	飲食料品製造業技能測定試験学習用テキスト第4版（2024年6月） その他、必要に応じてレジュメを配布する
備 考	受講者の理解度により、講義の順番や重点を変えることがある。

科目名	社会保障論	担当教員		中條 秀憲 先生	
学年・学期	1年・前期-後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

日本の社会保障制度の基本を学び、特に留学生が関わる健康保険年金、労働保険などを中心に解説します。実生活に役立つ知識を身に付け、社会保障の課題について考察します。

授業目標

- 1、日本の社会保障制度の基礎を理解する。
- 2、健康保険・年金・労働保険などの仕組みを学ぶ。
- 3、留学生が利用可能な制度と手続きを学ぶ。
- 4、社会保障の課題について議論できる。

授業計画

1	社会保障の概要
2	日本の社会保障制度
3	健康保険(仕組み・加入・給付)
4	医療費負担と高額療養費制度
5	年金制度(国民年金・厚生年金)
6	年金の受給資格と脱退一時金
7	労働保険(労災・雇用保険)
8	生活保護と社会福祉制度
9	少子高齢化と社会保障の課題
10	外国人の社会保障と国際比較
11	社会保障の倫理的課題
12	ケーススタディ(留学生の社会保障問題)
13	実際の手続き演習
14	まとめとディスカッション
15	試験
成績評価法	授業参加、発言40%・小テスト30%・最終30%
使用テキスト	(印刷配布)
備 考	

科目名	ホスピタリティ I	担当教員		学科内部教員	
学年・学期	1年・後期	時間数	15	単位数	1

授業概要

日本文化の「おもてなし」の心を理解する。

授業目標

文化祭と課外研修を通して、日本文化のひとつである「おもてなし」について理解を高める。

授業計画

1	文化祭でのホスピタリティ
2	文化祭でのホスピタリティ
3	文化祭でのホスピタリティ
4	文化祭でのホスピタリティ
5	課外研修 テーマパークでのホスピタリティ
6	課外研修 テーマパークでのホスピタリティ
7	課外研修 テーマパークでのホスピタリティ
8	課外研修 テーマパークでのホスピタリティ
成績評価法	出席率・聴講態度
使用テキスト	
備 考	

科目名	異文化コミュニケーション	担当教員		学科内部教員	
学年・学期	1年・前期	時間数	90	単位数	3

授業概要

日本文化や各種イベントの体験から、異文化理解を深める。

授業目標

日本文化と様々な国の文化の学習を通して、学生間の交流を深め、異文化理解とコミュニケーションを促進する。

授業計画

1	日本文化・行事について学ぶ
2	日本文化・行事について学ぶ
3	日本文化・行事について学ぶ
4	日本文化・行事について学ぶ
5	日本文化に触れる ～遠州流茶道～ (別紙1) 参照
6	日本文化に触れる ～遠州流茶道～
7	日本文化に触れる ～遠州流茶道～
8	日本文化に触れる ～遠州流茶道～
9	季節の行事に触れる
10	季節の行事に触れる
11	季節の行事に触れる
12	季節の行事に触れる
13	季節の風物詩に触れる
14	季節の風物詩に触れる
15	季節の風物詩に触れる
16	季節の風物詩に触れる
17	日本文化に触れる ～遠州流茶道～ (別紙1) 参照
18	日本文化に触れる ～遠州流茶道～
19	日本文化に触れる ～遠州流茶道～
20	日本文化に触れる ～遠州流茶道～
21	文化祭準備

22	文化祭準備
23	文化祭準備
24	文化祭準備
25	文化祭準備
26	文化祭準備
27	文化祭準備
28	文化祭準備
29	文化祭
30	文化祭
31	文化祭
32	文化祭
33	日本文化に触れる
34	日本文化に触れる
35	日本文化に触れる
36	日本文化に触れる
37	日本文化に触れる 年末年始の風物詩
38	日本文化に触れる 年末年始の風物詩
39	日本文化に触れる 年末年始の風物詩
40	日本文化に触れる 年末年始の風物詩
41	日本文化に触れる 新春行事
42	日本文化に触れる 新春行事
43	日本文化に触れる 新春行事
44	日本文化に触れる 新春行事
45	日本文化・行事のまとめと発表
成績評価法	出席率・聴講態度
使用テキスト	
備 考	

科目名	異文化コミュニケーション	担当教員		遠州茶道宗家 様	
学年・学期	1年 前期・後期	時間数	90	単位数	4

授業概要

茶道を学ぶ
茶盆点、和室での立ち居振る舞い、お菓子のいただき方、お茶のいただき方

授業目標

茶道を通じて、日本の四季の移ろいや美意識に触れると共に相手を思いやる心を学ぶ

授業計画

1	茶の湯ってなんだろう？抹茶を飲んでみよう～夏の茶の湯～
2	和室での立ち居振る舞い
3	不思議な茶の湯 作法に込められた思い ～秋の茶の湯～
4	和室での立ち居振る舞い お菓子・お茶のお運び
5	おいしい茶の湯 菓子と料理 ～冬の茶の湯～
6	和室での点法
7	すてきな茶の湯 茶の湯は日本の総合芸術 ～春の茶の湯～
8	和室でのミニ茶会
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
成績評価法	
使用テキスト	
備 考	

X - II 1 年 C ・ D クラス

科目名	オリエンテーション	担当教員		学科内部教員	
学年・学期	1年・前期	時間数	20	単位数	1

授業概要

学校生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識や学校の規則、各種手続きについて学ぶ。

授業目標

学生・社会人として基本的なマナーを学び、学校生活を有意義に送るための知識やスキルを身につける。

授業計画

1	ホームルーム 学校生活の心構えについて
2	ホームルーム 学校生活の心構えについて
3	ホームルーム 学校生活の心構えについて
4	ホームルーム 学校生活の心構えについて
5	ホームルーム 学校規則・各種手続きについて
6	ホームルーム 学校規則・各種手続きについて
7	ホームルーム 学校規則・各種手続きについて
8	ホームルーム 学校規則・各種手続きについて
9	ホームルーム 学校規則・各種手続きについて
10	ホームルーム 学校規則・各種手続きについて
成績評価法	出席率・聴講態度
使用テキスト	
備 考	

科目名	英語	担当教員		藤田 明男 先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

本科は日常で使う為のリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングのコミュニケーション活動を通して4つの基礎的な技能を学ぶ

授業目標

基本的な英語の仕組みを理解し日常の場で少ない単語で会話ができるようにする

授業計画

1	英語の仕組みとbe動詞及び一般動詞の肯定文・否定文・疑問文
2	一般動詞の現在進行形と疑問文
3	疑問詞 when/where/who/what/why/how
4	規則動詞と不規則動詞、be going to+動詞の原形
5	未来形will、助動詞と命令文
6	不定詞と定冠詞、単数形と複数形、可算名詞と不可算名詞
7	代名詞と意味のないIt
8	getとhave、doとmake
9	Let'st動詞の原形、Shall I+動詞の原形
10	someとany、all・most・some・any、no/none
11	everyとall、not any+代名詞/not+名詞/not～but
12	both、either、neither
13	a lot/much/many、(a) littleと(a) few
14	レビューと小テスト
15	試験
成績評価法	小テスト及び受講態度と筆記試験
使用テキスト	New Horison1. 2. 3、マーフィーのケンブリッジ英文法
備 考	

科目名	ビジネスマナー	担当教員		島村定充 先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

国際化の中で、日本独自のしきたりや習慣を理解し、他者に説明できる知識を持ち、それを多文化意識として学習する。マナーとは何かを考え、多様化するビジネスマナーを身に着け、実践できるようにする。

授業目標

ビジネス・シーンに必要な基本的マナーの学習を通してコミュニケーション力の向上を図るとともに、実社会で即戦力となりうる人材の育成を目指す。社会人に求められる常識、言葉遣いと話し方、接客対応を習得する。

授業計画

1	オリエンテーション、「仕事」とは何か
2	社会と組織
3	仕事と成果
4	一般知識
5	ビジネスコミュニケーション
6	社会人にふさわしい言葉遣い①
7	ビジネス文書の活用
8	職場のマナー
9	社会人にふさわしい言葉遣い②
10	来客対応
11	電話対応
12	交際業務
13	文書類の受け取りと発送
14	社会人にふさわしい言葉遣い③
15	試 験
成績評価法	受講態度30%、中間試験30%、期末試験40%を目安に総合的に評価
使用テキスト	必要に応じてレジュメを配布する
備 考	受講者の理解度により、講義の順番や重点を変えることがある。

科目名	ビジネス英会話	担当教員		藤田 明男 先生	
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

本科は仕事で使う為のリスニング・スピーキングを中心にビジネス英語の初級レベルを学ぶ。

授業目標

仕事や日常の場で外国人とコミュニケーションを取る力を養い、相手の言うことをゆっくりでも理解し基礎的な会話ができるようにする。

授業計画

1	初対面の人との成熟した大人としての接し方	1
2	初対面の人との成熟した大人としての接し方	2
3	たまに会うような人といい関係を築いていくために	1
4	たまに会うような人といい関係を築いていくために	2
5	たまに会うような人といい関係を築いていくために	3
6	いつも会うような人と互いにリスペクトしあうために	1
7	いつも会うような人と互いにリスペクトしあうために	2
8	いつも会うような人と互いにリスペクトしあうために	3
9	いつも会うような人と互いにリスペクトしあうために	4
10	ごく頻繁に接する人と信頼しあえるコミュニケーションを取っていく為に	1
11	ごく頻繁に接する人と信頼しあえるコミュニケーションを取っていく為に	2
12	ごく頻繁に接する人と信頼しあえるコミュニケーションを取っていく為に	3
13	ごく頻繁に接する人と信頼しあえるコミュニケーションを取っていく為に	4
14	ごく頻繁に接する人と信頼しあえるコミュニケーションを取っていく為に	5
15	試験	
成績評価法	小テスト及び受講態度と筆記試験	
使用テキスト	英会話ペラペラビジネス100 株式会社アルク	
備 考		

科目名	職業指導Ⅰ	担当教員		島村定充 先生	
学年・学期	1年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

「自分らしい生き方における、自分らしい働き方」を見つけるために、学生が主体的に進路選択について考え、働くことの意味を理解し、自らのワーク・ライフ・インテグレーションを確立できるようにする。

授業目標

日本独自の慣行を理解し、進路指導(職業指導)について各学生の進路とあわせてその課題と望ましい在り方について考えていく。

授業計画

1	オリエンテーション・日本における就職活動
2	働く意味を考える 何のために働くのか
3	働く意味を考える 社会のしくみ
4	働く意味を考える 働き方と働かせ方
5	キャリアについて考える 1
6	キャリアについて考える 2
7	自分の軸を考える 本当の自分は？
8	自分の軸を考える 人生について考える
9	希望について考える
10	社会が求めていることを考える 社会人基礎力とは？
11	社会が求めていることを考える 成果主義とは？
12	職業を考える 適職と天職
13	職業を考える 簡易業界・職業研究
14	職業を考える 簡易企業・職種研究
15	まとめ
成績評価法	受講態度30%、課題30%、実技・発表40%を目安に総合的に評価
使用テキスト	必要に応じてレジュメを配布する
備 考	受講者の理解度により、講義の順番や重点を変えることがある。

科目名	コンピュータ基礎	担当教員		東 正次郎先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

Windows (OS基本ソフト) の基本的な操作を習熟し、Word (文書作成ソフト) の基本的な使い方を学ぶ

授業目標

- ①パソコンの基本的な操作を習得する。
- ②Wordで簡単な資料を作れるようになる。

授業計画

1	パソコンとWordの基本知識
2	日本語入力①文字の入力、日本語の入力と漢字変換
3	日本語入力②IMEパッド、日本語の入力の演習
4	文字書式の設定
5	段落書式の設定
6	検索・置換とコピー・貼り付けの操作
7	表の作成と編集
8	画像の挿入①
9	画像の挿入②画像の挿入の演習
10	図形の作成
11	ワードアートの挿入
12	グラフの作成
13	SmartArtの挿入
14	ページ設定と印刷、総合問題演習
15	試験
成績評価法	平常点40点、試験60点
使用テキスト	プリント【留学生のためのWindows基礎、Word (Word2019対応)】
備 考	

科目名	ビジネス文書演習	担当教員		東 正次郎 先生	
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

統合型表計算ソフト「Excel」の操作

授業目標

- ①Excelの基本操作を習熟する。
- ②「Excel」を利用して、表計算からグラフ作成、データ管理までのさまざまな機能を習得する

授業計画

1	Excelの基礎知識
2	データの入力①データの種類と表示形式、フォントの書式設定
3	データの入力②オートフィル、演習
4	表の作成
5	数式とセル参照
6	関数1 (オートSUM)
7	関数2 (関数IF)
8	グラフの作成①棒グラフ、グラフ要素の確認、円グラフ
9	グラフの作成②折れ線グラフ、演習
10	印刷ページの設定
11	抽出と並べ替え
12	条件付き書式とスパークライン
13	図形と画像
14	総合問題演習
15	試験
成績評価法	平常点40点、試験60点
使用テキスト	プリント【留学生のためのExcel (Word2019対応)】
備 考	

科目名	国際関係論	担当教員		尾田 裕加里 先生	
学年・学期	1年・前・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

「国際関係」の基本から、地域別現況までを知る

授業目標

「国と国とのつながり」という超基本項目から、21世紀の難題である「新たな戦争」や「地域温暖化問題」や「地球温暖化問題」までを理解し、やさしい日本語で論じられるようになること

授業計画

1	国と国のつながりの基本について
2	国際関係がどう築かれるかについて
3	世界の国々と日本の関わりについて
4	国連の役割について
5	世界の主な「同盟」や「協定」について
6	日本の国際関係について
7	アメリカの国際関係について
8	新興国(ASEAN、BRICS等)の国際関係について
9	EUの国際関係について
10	発展途上国の国際関係について
11	グローバルリゼーションについて
12	新たな国際主体(国際機関と非政府組織)について
13	21世紀の難題(新たな戦争、地球温暖化等)について
14	日本他各国(ネパール、バングラディシュ、スリランカ等)の課題を考える
15	試験 習ったことについて、論じる(記述式)
成績評価法	採点者の試験評価
使用テキスト	坂東太郎著『国際関係の基本がイチからわかる本』2017 眞淳平著『地図で読む国際関係入門』2019
備 考	

科目名	経営学	担当教員		雨宮 一彦 先生	
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

私たちが社会生活をしていく上で社会(企業)とは密接な関りがあります。経営学では、社会における会社経営のありかたや会社の組織、構造および生産、販売、戦略など会社経営のプロセスについて学習します。

授業目標

- (1) 会社とは何かを説明できる。 (2) 会社の組織形態について説明できる。
 (3) 経営戦略について説明できる。 (4) 損益分岐点について説明できる。
 (5) 経営管理について説明できる。 (6) 経営分析について説明できる。

授業計画

1	経営学とはどのような学問なのか
2	経営組織
3	職能別組織と事業部制組織
4	株式会社とは何か
5	親会社と子会社
6	ホールディングスとM \$ A
7	株式と投資
8	経営戦略
9	経営分析
10	変動費・固定費・損益分岐点
11	マーケティング経営管理
12	製品のライフサイクル
13	環境ビジネス
14	経営リスクマネジメント
15	試験
成績評価法	試験の成績、受講の態度、授業への出席率で総合的に評価する。
使用テキスト	随時プリントを配布するので保管しておくこと。
備 考	

科目名	日本語表現法	担当教員		伊藤 美恵子 先生	
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

『読む・書く・話す』を適切にできるように複数の教材を組み合わせでコミュニケーション力を養う

授業目標

得意・不得意や好き嫌いなど個人差・バラつきがあっても、様々な課題(読む・聞く・書く・話す)に取り組む中で、総合的なコミュニケーションスキルの向上を目指す
--

授業計画

1	文法、単語、フレーズ 読む、書くを中心にプリントを用意 聞く・日本の習慣などを中心にプリントを用意 以下同じ組み合わせで難易度を調整
2	シャドーイング、名作童話① (CDと音読)
3	文法、単語、フレーズ
4	シャドーイング、名作童話② (CDと音読)
5	文法、単語、フレーズ
6	シャドーイング、名作童話③ (CDと音読)
7	文法、単語、フレーズ
8	シャドーイング、名作童話④ (CDと音読)
9	文法、単語、フレーズ
10	シャドーイング、名作童話⑤ (CDと音読)
11	文法、単語、フレーズ
12	シャドーイング、名作童話⑥ (CDと音読)
13	文法、単語、フレーズ
14	シャドーイング、名作童話⑦ (CDと音読)
15	試験
成績評価法	出席・平常点・テストの点を総合的に評価する
使用テキスト	明日から使える慣用句(京都書房) 日本の大和言葉を美しく話す(東邦出版) 話そう考えよう日本事情(スリーエーネットワーク) 国語文法事典(ベネッセ) 国語をひとつひとつわかりやすく(学研) 春ちゃんのおつかい(東海学院)
備 考	

科目名	衛生管理	担当教員		雨宮 一彦 先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

食生活において飲食物の摂取は、人間が生きていくうえで欠かせないことである。飲食料品の製造に携わる従事者は人々へ安心して安全な食品を提供することが使命である。しかし、従業員自身も衛生的で安全な労働環境で仕事をしなければならない。衛生管理では食品衛生と労働安全の知識と技能について学習する。

授業目標

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| (1) 食品における危害要因について説明できる。 | (2) 食中毒の種類について説明できる。 |
| (3) 食中毒の予防法について説明できる。 | (4) HACCPについて説明できる。 |
| (5) 食品製造工程別衛生管理について説明できる。 | (6) 労働安全について説明できる。 |

授業計画

1	食品製造業の種類
2	食品衛生とは
3	飲食物を介しての健康危害要因
4	食中毒の種類
5	細菌性毒素型食中毒
6	細菌性感染型食中毒
7	ウイルス性食中毒
8	寄生虫による食中毒
9	食中毒予防の3原則
10	H A C C P
11	手指衛生と手洗いの重要性
12	食品を介しての健康危害の実例
13	食品製造工程における衛生管理
14	食品製造工程における労働安全
15	試験
成績評価法	試験の成績、受講の態度、授業の出席率で総合的に評価する。
使用テキスト	随時プリントを配布するので保管しておくこと。
備 考	

科目名	医療管理総論	担当教員	町田 一哉 先生
学年・学期	1年・前期	時間数	30
		単位数	1

授業概要

電子化された診療録を用いて、医療機関の各種システムと連携について理解する
医療DXについて理解する

授業目標

医療機関におけるコンピュータを利用した診療情報処理を理解する
医療機関における診療情報の流れに触れ、病院のシステムがどのように繋がっているか理解する

授業計画

1		1-1 医療関連法規
2		1-1 医療関連法規
3	1. 医療制度と医療関連法規	1-2 保健医療福祉制度と行政組織 1-3 保健医療福祉専門職の種類と責務
4		1-4 健康指標と予防医学 1-5 救急医療と災害時医療
5	2. 病院業務と病院の運営管理	2-1 病院における診療体制と業務 2-2 診療の過程
6		2-3 病院の運営と管理 2-4 安全で適切な医療
7		3-1 診療記録の種類と保存期間
8	3. 医療情報の特性と医療の情報倫理	3-1 診療記録の種類と保存期間 3-2 医療情報の特性と利用
9		3-3 医の倫理 3-4 医療の情報倫理
10	4. 情報システムの基盤技術	4-1 情報セキュリティの脅威と対策 4-2 ユーザー管理
11		5-1 病院情報システム
12	5. 医療情報システムの構成と機能	5-2 地域医療情報システムと保健福祉情報システム 5-3 医療情報システムの管理
13		6-1 医療情報の標準化
14	6. 医療情報の標準化と活用	6-1 医療情報の標準化 6-2 情報の分析と評価
15	試験	
成績評価法	最終試験の結果・出席状況・小テストの結果を合わせて評価	
使用テキスト	医療情報の基礎知識 第15～20回医療情報基礎知識検定試験問題付/一般社団法人日本医療情報学会医療情報技師育成部会 医療情報システム入門2023 単行本/一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 JAHIS (編集)	
備 考		

科目名	医学用語演習	担当教員		上杉 洋一 先生	
学年・学期	1年・前期・後期	時間数	60	単位数	2

授業概要

今日の医学エビデンスに基づき、生活に関連した医学知識を学び、人体に興味を持てる様にする。

授業目標

今日の医学知識を学び、自分自身と家族や知人が健康にすこやかに生活できる様になってほしい

授業計画

1	基礎医学用語（からだに関する用語）
2	解剖学によく出る漢字と概念
3	進化論と創造論
4	ファクトフルネス
5	遺伝子は語る
6	人類のルーツ ミトコンドリア DNA
7	古代人の宇宙観、地動説
8	言語の由来、古代地球歴史
9	地球誕生 45億年 痕関器官
10	自然淘汰、遺伝情報のプログラマー
11	恐竜とダーヴィン
12	薬物乱用とは
13	身体依存と精神依存
14	濁望の特性
15	薬物を使いがちな状況
16	奇跡の国 日本
17	認知行動療法
18	脳のしくみ

19	脳内ホルモン セロトニンとメラトニン
20	オキシトシン・ドーパミン
21	アドレナリンとノルアドレナリン、エンドルフィン
22	sexと関わる4大ホルモン
23	なぜ人には性欲があるか?
24	パフォーマンスが高まる脳の状態
25	ドーパミンをドバドバ出してやる気を出す方法
26	感情をコントロールする方法
27	栄養素と健康
28	体温と健康
29	免疫と白血球
30	試験
成績評価法	出席50点 試験50点の計100点満点のうち60点で合格
使用テキスト	教員持参テキスト
備 考	

科目名	通訳理論と技術	担当教員		増田 博道 先生	
学年・学期	1年・前期・後期	時間数	60	単位数	2

授業概要

医療通訳 本テキストにそって授業

授業目標

専門職の確立に向けて

授業計画

1	訳すということ
2	文化をどう訳すか
3	通訳が担う責任
4	等価なメッセージとは
5	言語用域 (レジスタ)
6	三者二者言語モデル
7	対話通訳と相互作用
8	対話のコミュニケーションとは
9	質の高い通訳とは
10	医療通訳とは
11	日本における役割
12	日本における歴史
13	専門職の確立に
14	母国と第二言語
15	通訳に必要な通訳
16	シャドーイング
17	トランスクリプション
18	ランキング

19	通訳者として基本的人権の尊重
20	守秘義務
21	忠実性と正確性
22	中立・公平
23	役割の境界を明確にする
24	プライバシーへの配慮
25	異文化理解
26	礼儀とマナー
27	アドボカシー
28	医療従事者の発話
29	情報の収集方法
30	試験
成績評価法	ペーパーテスト
使用テキスト	医療通訳
備 考	

科目名	人体構造・機能論	担当教員		上杉 洋一 先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

解剖学の基本をやさしく解説し構造や様々な働きを考える

授業目標

人の体（自分の体）を改めて考え、「なんで」「どうして」と疑問を持たせ、理解・納得すると、体って上手くできていると感心させたい。

授業計画

1	細胞と器官
2	筋肉 骨格筋、心筋と平滑筋
3	骨の働き 5つの機能・形と構造
4	血液の循環
5	心臓の働き・リンパ節とは
6	呼吸のメカニズム
7	消化器系、小腸の仕組み
8	腎臓で尿生成
9	ホルモンとは
10	感覚器とは
11	神経の仕組み
12	脳の働きと構造
13	交感神経と副交感神経
14	生殖器の働き
15	試験
成績評価法	出席50点・試験50点の100点満点で評価（60点で合格）
使用テキスト	㈱ナツメ社 史上最強図解これならわかる！解剖学
備 考	

科目名	医療関係法規概論	担当教員		小林 憲人 先生	
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

一般法規、医療関係法規及び公的医療保険制度の解説と問題演習。

授業目標

一般法規、医療関係法規及び公的医療保険制度の基礎知識を身につける。

授業計画

1	法の概念 法律一般
2	法の概念 法律一般
3	医療法総論 保険医療提供体制
4	医療法総論 保険医療提供体制
5	医療法各論 医療情報の提供
6	医療法各論 医療情報の提供
7	医療法各論 医療法の改正
8	医療法各論 医療法の改正
9	医療従事者に関する法規
10	医療従事者に関する法規
11	衛生法規
12	衛生法規
13	公的医療保険制度
14	公的医療保険制度
15	試験
成績評価法	定期試験の結果、授業態度、出席による総合評価
使用テキスト	講義当日に、適宜、レジュメを配布する。
備 考	

科目名	看護基礎学	担当教員		佐々木 順承 先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

介護に関係した身体の構造と機能に関する基本的な知識を習得できる学びとする。

授業目標

移動・移乗、食事、入浴、清潔保持、排泄、着脱、整容、睡眠などに関連するからだのしくみなど、介護職が支援を行う際に前提となる身体の機能と構造について理解することができる。また、障害の理解を深めたうえで、障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識と特性に応じた支援を習得することができる。

授業計画

1	こころの理解
2	からだのしくみの理解
3	からだの基本構造
4	休息、睡眠に関するからだのしくみ
5	老化の理解
6	高齢者に多い症状と病気の特徴
7	高齢者に多い症状
8	高齢者に多い病気
9	障害の理解
10	障害の種類、原因と特性
11	認知症の理解
12	認知症ケアのポイント
13	認知症の主な原因疾患と症状
14	認知症のある人の介護
15	試験
成績評価法	筆記試験
使用テキスト	資料配布
備 考	

科目名	看護用語 I	担当教員			
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

介護を必要とする対象者の生活支援を行うため、介護の実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能の理解を目指す。

授業目標

- ・介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解することができる
- ・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみについて理解することができる

授業計画

1	こころのしくみの理解（人間の欲求の基本的理解）
2	こころのしくみの理解（自己実現と生きがい）
3	からだのしくみの理解（生命の維持・恒常のしくみ）
4	からだのしくみの理解（体温、呼吸、脈拍、血圧）
5	人体部位の名称と機能（神経系）
6	人体部位の名称と機能（筋骨格系）
7	人体部位の名称と機能（感覚器系）
8	人体部位の名称と機能（呼吸器系）
9	人体部位の名称と機能（循環器系）
10	人体部位の名称と機能（消化器系）
11	人体部位の名称と機能（泌尿器系）
12	人体部位の名称と機能（内分泌系）
13	人体部位の名称と機能（免疫系）
14	休息、睡眠に関するからだのしくみ
15	試験
成績評価法	定期試験60％ レポート・提出物20％ 授業への取り組み20％
使用テキスト	プリント配布
備 考	

科目名	看護助手知識	担当教員			
学年・学期	1年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識を見につけ、利用者の自立に向けた生活支援のために、状況に合わせた介護技術を選択・活用することができる判断力の取得を目指す

授業目標

- ・様々な生活場面において自立支援の観点から根拠に基づいた介護実践を行うことができる
- ・利用者の自立した生活支援のために、状況に合わせた介護技術を選択・活用することができる

授業計画

1	移動の意義と目的
2	移動の生理的意味、重心の移動とバランス
3	姿勢・立位の保持のしくみ、立位・座位保持のしくみ
4	機能の低下・障害が及ぼす移動への影響
5	体位変換、起居の介助、安楽な体位
6	歩行の介助、車いすの介助、移動に用いる福祉用具、介助の留意点
7	食事の意義と目的
8	食事の生理的意味、食べるしくみ
9	機能低下・障害が及ぼす食事への影響
10	食事の姿勢、食事の介護の流れ、状態に応じた食事の介護
11	食事に用いる福祉用具、介助の留意点
12	排泄の意義と目的
13	排泄の生理的意味、排泄のしくみ、機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響
14	排泄の介護の流れ、排泄に用いる福祉用具、介助の留意点
15	試験
成績評価法	定期試験60％ レポート・提出物20％ 授業への取り組み20％
使用テキスト	プリント配布
備 考	

科目名	総合日本語	担当教員	木原 敦 先生
学年・学期	1年・後期	時間数	30
		単位数	1

授業概要

苦手分野の対策、現状、漢字・語彙の復習
模試スタイルの練習とポイント解説

授業目標

JLPT N3合格率UP
4技能を使ってN3レベルのコミュニケーションができる

授業計画

1	重要な文法項目、総合問題 授業のすすめ方
2	課題分野の反復練習 ① 読解 情報、チラシ
3	課題分野の反復練習 ② 読解 説明文、意見文
4	課題分野の反復練習 ③ 読解 エッセイ、小説
5	課題分野の反復練習 ④ 読解 新聞
6	課題分野の反復練習 ⑤ 読解 論説文
7	模試スタイルテスト TOTAL問題、解説 ①
8	模試スタイルテスト TOTAL問題、解説 ②
9	模試スタイルテスト TOTAL問題、解説 ③
10	課題作成 作文
11	傾向と対策 直前ポイント指導 ① 頻出単語
12	傾向と対策 直前ポイント指導 ② 接続詞 指示詞
13	傾向と対策 直前ポイント指導 ③ 副詞 数詞
14	傾向と対策 直前ポイント指導 ④ 文法
15	試験
成績評価法	出席率/テスト/課題
使用テキスト	ポイントアンドプラクティス 模試と対策Vol2
備 考	

科目名	文法・文法対策	担当教員		中條 秀憲 先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

この授業では、日本語能力試験 (JLPT) N2、N3レベルの文法を学び、試験対策を行います。文法の理解を深めるだけでなく、実際の会話や文章の中で適切に使えるようにすることを目指します。

授業目標

- 1、N2、N3レベルの文法項目を理解し、正しく使えるようになる。
- 2、文法を活用した文章作成や会話ができるようになる。
- 3、JLPT対策問題を解く力を養い、合格を目指す。
- 4、ペアグループやグループ活動を通して、実践的な日本語力を向上させる。

授業計画

1	オリエンテーション N3、文法復習① (基本文)
2	N3 文法復習② (接続詞、助詞)
3	N3 文法復習③ (受身、使役、可能)
4	N2 文法① (～ものだ、～ことにするなど)
5	N2 文法② (～わけだ、～わけではない、など)
6	N2 文法③ (～によると、～に違いない、など)
7	N2 文法④ (～ばかり、～がちなど)
8	N2 文法⑤ (～つつある、～かねないなど)
9	N2 文法⑥ (～ことから、～に基づいてなど)
10	実践演習① (読解問題)
11	実践演習② (聴解問題)
12	実践演習③ (文法・語彙問題)
13	模擬試験① (時間配分・解き方のコツ)
14	模擬試験② (総復習、弱点克服)
15	試験
成績評価法	筆記、リスニングテスト
使用テキスト	日本語総まとめN3、文法、アスク出版1,200円
備 考	

科目名	文字表記・文字語彙	担当教員		寺戸 弘之 先生	
学年・学期	1年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

- ・日常的な場面で使われる漢字・語彙を理解します。
- ・N3レベルの「文字・語彙」を学びます。

授業目標

- ・日常生活や職場でのコミュニケーションをより円滑にするための漢字や語彙を身につける。
- ・N3レベルの漢字・語彙が使用できるようになる。

授業計画

1	オリエンテーション、文字表記・文字語彙①
2	文字表記・文字語彙②
3	文字表記・文字語彙③
4	文字表記・文字語彙④
5	文字表記・文字語彙⑤
6	文字表記・文字語彙⑥
7	文字表記・文字語彙⑦
8	文字表記・文字語彙⑧
9	文字表記・文字語彙⑨
10	文字表記・文字語彙⑩
11	文字表記・文字語彙⑪
12	文字表記・文字語彙⑫
13	文字表記・文字語彙⑬
14	文字表記・文字語彙⑭
15	試験、文字表記・文字語彙⑮
成績評価法	試験 (50%) 及び講座内の課題・取り組み姿勢 (50%) を合わせて評価する。
使用テキスト	『J L P T 文字・語彙N 3 ポイント&プラクティクス』(スリーエーネットワーク)
備 考	

科目名	産業ビジネス I	担当教員		島村定充 先生	
学年・学期	1 年 前期・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

飲食料品製造業食品工場などで働くために必要な食品安全と品質管理の知識の習得を目指すとともに、労働安全衛生を現場で実践できるようにすることを目的とする。

授業目標

一般的な衛生管理の基礎を学習することで職業選択の幅を広げられるようになるほか、労働安全衛生に関する正しい知識を得ることで労働災害のリスク回避が出来るようになることを目指す。

1	ガイダンス 講義方法及び内容、評価についての説明
2	食品安全・品質管理の基本的な知識 ①食品安全の必要性
3	食品安全・品質管理の基本的な知識 ②食中毒に関する基礎知識
4	一般的衛生管理の基礎 ①原材料の受入れと保管
5	一般的衛生管理の基礎 ②調理器具などの洗浄・消毒・殺菌
6	製造工程管理の基礎 ①製造工程の管理と注意事項
7	製造工程管理の基礎 ②製品の管理
8	製造工程管理の基礎 ③アレルギー物質の管理
9	HACCPによる衛生管理 ①危害要因分析
10	HACCPによる衛生管理 ②H A C C P 7 原則
11	HACCPによる衛生管理 ③H A C C P 衛生管理の基本
12	労働安全衛生に関する知識 ①職場の危険防止対策
13	労働安全衛生に関する知識 ②作業手順と 5 S の励行
14	労働安全衛生に関する知識 ③異常事態発生時の対応など
15	試 験
成績評価法	受講態度30%、中間試験30%、期末試験40%を目安に総合的に評価
使用テキスト	飲食料品製造業技能測定試験学習用テキスト第4版（2024年6月） その他、必要に応じてレジュメを配布する
備 考	受講者の理解度により、講義の順番や重点を変えることがある。

科目名	社会保障論	担当教員		中條 秀憲 先生	
学年・学期	1年・前期-後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

日本の社会保障制度の基本を学び、特に留学生が関わる健康保険年金、労働保険などを中心に解説します。実生活に役立つ知識を身に付け、社会保障の課題について考察します。

授業目標

- 1、日本の社会保障制度の基礎を理解する。
- 2、健康保険・年金・労働保険などの仕組みを学ぶ。
- 3、留学生が利用可能な制度と手続きを学ぶ。
- 4、社会保障の課題について議論できる。

授業計画

1	社会保障の概要
2	日本の社会保障制度
3	健康保険(仕組み・加入・給付)
4	医療費負担と高額療養費制度
5	年金制度(国民年金・厚生年金)
6	年金の受給資格と脱退一時金
7	労働保険(労災・雇用保険)
8	生活保護と社会福祉制度
9	少子高齢化と社会保障の課題
10	外国人の社会保障と国際比較
11	社会保障の倫理的課題
12	ケーススタディ(留学生の社会保障問題)
13	実際の手続き演習
14	まとめとディスカッション
15	試験
成績評価法	授業参加、発言40%・小テスト30%・最終30%
使用テキスト	(印刷配布)
備 考	

科目名	ホスピタリティ I	担当教員		学科内部教員	
学年・学期	1年・後期	時間数	15	単位数	1

授業概要

日本文化の「おもてなし」の心を理解する。

授業目標

文化祭と課外研修を通して、日本文化のひとつである「おもてなし」について理解を高める。

授業計画

1	文化祭でのホスピタリティ
2	文化祭でのホスピタリティ
3	文化祭でのホスピタリティ
4	文化祭でのホスピタリティ
5	課外研修 テーマパークでのホスピタリティ
6	課外研修 テーマパークでのホスピタリティ
7	課外研修 テーマパークでのホスピタリティ
8	課外研修 テーマパークでのホスピタリティ
成績評価法	出席率・聴講態度
使用テキスト	
備 考	

科目名	異文化コミュニケーション	担当教員		学科内部教員	
学年・学期	1年・前期	時間数	90	単位数	3

授業概要

日本文化や各種イベントの体験から、異文化理解を深める。

授業目標

日本文化と様々な国の文化の学習を通して、学生間の交流を深め、異文化理解とコミュニケーションを促進する。

授業計画

1	日本文化・行事について学ぶ
2	日本文化・行事について学ぶ
3	日本文化・行事について学ぶ
4	日本文化・行事について学ぶ
5	日本文化に触れる ～遠州流茶道～ (別紙1) 参照
6	日本文化に触れる ～遠州流茶道～
7	日本文化に触れる ～遠州流茶道～
8	日本文化に触れる ～遠州流茶道～
9	季節の行事に触れる
10	季節の行事に触れる
11	季節の行事に触れる
12	季節の行事に触れる
13	季節の風物詩に触れる
14	季節の風物詩に触れる
15	季節の風物詩に触れる
16	季節の風物詩に触れる
17	日本文化に触れる ～遠州流茶道～ (別紙1) 参照
18	日本文化に触れる ～遠州流茶道～
19	日本文化に触れる ～遠州流茶道～
20	日本文化に触れる ～遠州流茶道～
21	文化祭準備

22	文化祭準備
23	文化祭準備
24	文化祭準備
25	文化祭準備
26	文化祭準備
27	文化祭準備
28	文化祭準備
29	文化祭
30	文化祭
31	文化祭
32	文化祭
33	日本文化に触れる
34	日本文化に触れる
35	日本文化に触れる
36	日本文化に触れる
37	日本文化に触れる 年末年始の風物詩
38	日本文化に触れる 年末年始の風物詩
39	日本文化に触れる 年末年始の風物詩
40	日本文化に触れる 年末年始の風物詩
41	日本文化に触れる 新春行事
42	日本文化に触れる 新春行事
43	日本文化に触れる 新春行事
44	日本文化に触れる 新春行事
45	日本文化・行事のまとめと発表
成績評価法	出席率・聴講態度
使用テキスト	
備 考	

科目名	異文化コミュニケーション	担当教員		遠州茶道宗家 様	
学年・学期	1年 前期・後期	時間数	90	単位数	4

授業概要

茶道を学ぶ
茶盆点、和室での立ち居振る舞い、お菓子のいただき方、お茶のいただき方

授業目標

茶道を通じて、日本の四季の移ろいや美意識に触れると共に相手を思いやる心を学ぶ

授業計画

1	茶の湯ってなんだろう？抹茶を飲んでみよう～夏の茶の湯～
2	和室での立ち居振る舞い
3	不思議な茶の湯 作法に込められた思い ～秋の茶の湯～
4	和室での立ち居振る舞い お菓子・お茶のお運び
5	おいしい茶の湯 菓子と料理 ～冬の茶の湯～
6	和室での点法
7	すてきな茶の湯 茶の湯は日本の総合芸術 ～春の茶の湯～
8	和室でのミニ茶会
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
成績評価法	
使用テキスト	
備 考	

X - Ⅲ 2 年 AM クラス

科目名	職業指導Ⅱ	担当教員		島村定充 先生	
学年・学期	2年 前期・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

「自分らしい生き方における、自分らしい働き方」を見つけるために、学生が主体的に進路選択について考え、働くことの意味を理解し、自らのワーク・ライフ・インテグレーションを確立できるようにする。

授業目標

進路指導(職業指導)と各学生の進路について、実践を通してその課題と望ましい在り方について考えていく。

授業計画

1	オリエンテーション・日本における就職活動
2	ワーク・ライフ・インテグレーション
3	職業を考える 簡易業界・職業研究②
4	職業を考える 簡易企業・職種研究②
5	合同企業説明会①
6	合同企業説明会②
7	合同企業説明会③
8	面接指導①
9	面接指導②
10	面接指導③
11	応募書類の書き方①
12	応募書類の書き方②
13	関係法規・手続き
14	就職試験対策①
15	就職試験対策②
成績評価法	受講態度30%、課題30%、実技・発表40%を目安に総合的に評価
使用テキスト	必要に応じてレジュメを配布する
備 考	受講者の理解度により、講義の順番や重点を変えることがある。

科目名	情報処理	担当教員		小久保 仁志 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	15	単位数	1

授業概要

1年次に学習したWordおよびExcelの基礎を踏まえ、実務に近い形でのドキュメント作成や表計算の応用力を養います。実際の仕事を想定した課題に取り組みながら、より効率的で正確な文書作成・データ管理スキルを身につけます。授業は演習中心で、日本語スキルも自然に向上することを目指します。

授業目標

- ・ WordおよびExcelの基本操作を再確認し、応用的な操作まで到達する
- ・ 日本語表現を理解しながら、指示に従って文書・資料を正確に作成できる
- ・ 就職後を想定したレポートや表現の作成ができる
- ・ 自立して課題に取り組む力を養い、成果物として提出できる

授業計画

1	ガイダンス・自己評価・Word復習(文字入力、保存、書式)
2	Word応用①：スタイル、目次、ページ設定
3	Word応用②：表の作成、画像や図形の挿入、SmartArt活用
4	Excel復習(セルの書式設定、罫線、列行操作、オートフィル)
5	Excel応用①：関数(SUM, AVERAGE, IF)とグラフの作成
6	Excel応用②：並べ替え、フィルター、条件付き書式
7	総合課題：就職後を想定したシナリオを用いた文書・表作成
8	試験
成績評価法	最終テスト:70%、授業内課題:10%、出席・態度:20%
使用テキスト	留学生のためのWordドリルブック 留学生のためのExcelドリルブック
備 考	

科目名	プレゼンテーション	担当教員		小久保 仁志 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

PowerPointを活用した「伝える力」「見せる工夫」を身につけることを目的に、プレゼンテーション資料の作成から発表までの一連の流れを実践的に学びます。スライドの構成や視覚効果の活用、話し方や原稿の書き方など、社会生活において求められるプレゼン力を総合的に育てます。

授業目標

- ・PowerPointの基本操作(スライド作成、編集、図形・画像の挿入など)を理解し使いこなす。
- ・見やすく伝わりやすい資料作成のコツを理解する
- ・日本語を使った簡潔で明確なプレゼンができるようになる

授業計画

1	ガイダンス・PowerPointの基礎(画面構成、保存、入力)
2	箇条書き・スライドの追加と並べ替え・レイアウト
3	スライドデザイン、配色、フォント変更
4	表や画像の挿入と編集
5	グラフとSmartArtの作成と編集
6	テキストボックス、アニメーション、画面切り替え
7	発表用ノート・配布資料の作成と印刷(PDF保存)
8	発表者ツールの使用、発表リハーサル
9	発表の構成を考える：伝えたいこと・順番・強調
10	実践課題：1テーマで3枚スライド(課題提出)
11	発表準備：発表原稿作成と読み上げ練習
12	発表練習①：個人発表とフィードバック(1)
13	発表練習②：個人発表とフィードバック(2)
14	まとめ・発表資料の完成と提出
15	試験
成績評価法	最終テスト：70%、授業内課題：10%、出席・態度：20%
使用テキスト	留学生のためのPowerPointドリルブック、できるPowerPoint2021office2021&Microsoft365両対応、プレゼンテーション演習
備 考	

科目名	秘書概論	担当教員		高木 敬子 先生	
学年・学期	2年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

秘書業務を通じて、職業人に求められる資質や役割について学ぶ。
また、知識を得るだけにとどまらず、現場で実践できるような知識と技術が習得できる内容とする。

授業目標

社会人に必要な基礎的なスキルを学習することにより、実践力を高め、職場において良好な人間関係を構築できるようになることを目指す。

1	ガイダンス 講義方法及び内容、評価についての説明 秘書とは
2	秘書の資質（秘書の心構え）
3	秘書の資質（求められる資質）
4	職務知識（秘書の機能と役割）
5	一般知識①
6	一般知識②
7	中間テスト
8	マナー・接遇（人間関係と話し方・聞き方）
9	マナー・接遇（電話応対・来客接遇）
10	マナー・接遇（慶弔時のマナー・贈答のマナーのマナー）
11	マナー・接遇（文書の取り扱い・郵便の知識）
12	マナー・接遇（敬語と接遇用語）
13	社会人にふさわしい言葉遣い①
14	社会人にふさわしい言葉遣い②
15	試 験
成績評価法	受講態度30％、中間試験30％、期末試験40％を目安に総合的に評価
使用テキスト	必要に応じてレジュメを配布する
備 考	受講者の理解度により、講義の順番や重点を変えることがある。

科目名	現代社会	担当教員		中條 秀憲 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

現代社会の仕組みや課題について学び、日本と世界の社会問題を比較しながら、理解を深める。政治、経済、環境、福祉、テクノロジーなど、多様な視点から学ぶ。

授業目標

1. 現代社会の基本的な構造を理解する
2. 日本と世界の社会問題について考える
3. 自分の意見を持ち、議論できる力を養う

授業計画

1	現代社会とは？-社会の変化と課題
2	グローバル化と日本-国際社会とのつながり-
3	日本の政治・選挙制度-民主主義の仕組み-
4	日本の経済システム-市場経済と労働問題-
5	社会保障と福祉-少子高齢化と福祉制度-
6	環境問題を持続可能な社会-SDGS視点-
7	テクノロジーと現代社会-AI・デジタル社会-
8	多文化共生と移民問題-異文化理解と共存-
9	労働とライフスタイル-働き方改革とは？-
10	ジェンダーと社会-男女平等と多様性の理解-
11	医療と社会-医療制度の公衆衛生の役割
12	防災と安全な社会-災害対策リスク管理
13	メディアと情報社会-SWSフェイクニュース-
14	現代社会の未来-これからの社会を考える-
15	試験
成績評価法	授業参加・発言40％・小テスト30％・最終レポート30％
使用テキスト	(配布)
備 考	

科目名	数理リテラシー	担当教員		東 正次郎 先生	
学年・学期	2年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

教育内容は、基本的な数学的概念や計算機能を育成し、実生活での問題解決に役立てることを目指します。数値の理解、データの解析、図形の認識、論理的思考など通じて、数学を日常生活に応用する力を養います。

授業目標

- ①確率の基礎的内容について理解する。
- ②様々な条件での事情についての確率計算を習熟する。
- ③日常生活での行動に、論理的思考などを通して、数学を応用する。

授業計画

1	基本的な数学的概念や、実生活での数学の応用
2	数学的思考による判断および行動についての演習
3	集合
4	集合問題の演習
5	場合の数
6	場合の数の和の法則と積の法則
7	順列
8	いろいろな順列の問題演習
9	組合せ
10	組合わせの利用
11	事象と確率
12	独立な思考の確率、反復思考の確率、条件付確率
13	期待値
14	総合問題演習
15	試験
成績評価法	平常点40点、試験60点
使用テキスト	プリント【留学生のための確率のはなし】
備 考	

科目名	医事コンピュータ	担当教員		町田 一哉 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	15	単位数	1

授業概要

医療事務で重要とされるコンピュータの基礎知識や技能をもとに
医療機関の情報の流れを読み取る

授業目標

医療事務コンピュータの基本を熟知し、実務に就いた時あわてることなく、即
戦力として適応する力を身につける

授業計画

1	コンピュータの基本表現：今日んぴゅーたの種類・基本表現
2	コンピュータの仕組みと動作
3	インターネットと情報活用：ネットワークの基本とインターネット
4	情報活用の基本：ファイルの種類と保存形式
5	ネットワークとセキュリティ
6	セキュリティ対策とプライバシー保護
7	個人情報保護と権利の保護に関する法律
8	試験
成績評価法	最終試験の結果・出席状況・小テストの結果を合わせて評価
使用テキスト	ケアアンドコミュニケーション 医事コンピュータ検定問題集2級 2024年度版
備 考	

科目名	電子カルテ	担当教員		町田 一哉 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

電子化された診療録を用いて、医療機関の各種システムと連携もついで理解する

授業目標

医療機関におけるコンピュータを利用した診療情報処理を理解する
医療機関における診療情報のながれに触れ、レセコン・電子カルテ等のシステムがどのように繋がっているか理解する

授業計画

1	電子カルテとは
2	医療情報化の歴史 I
3	電子カルテシステム利用1
4	電子カルテシステム利用2
5	電子カルテシステム利用3
6	カルテ記載
7	クリティカルパス
8	オーダリングシステム
9	部門システム1
10	部門システム2
11	部門システム3
12	情報セキュリティ2
13	情報セキュリティ
14	個人情報保護
15	試験
成績評価法	最終試験の結果・出席状況・小テストの結果を合わせて評価
使用テキスト	医療事務職のための電子カルテ入門 ぱーそん書房
備 考	視聴覚教室使用

科目名	保険請求事務総論	担当教員		桐生 孝史 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

医療で一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学び保険請求に必要な算定ルールを学ぶ

授業目標

医療チームの一員として事務系職員は大事なパートを担っている。豊富な専門性を持って対応する事が求められこの教科では専門職としての医学の基礎を身につける

授業計画

1	オリエンテーション
2	医療用語 1 一般的なもの
3	医療用語 2 専門的なもの
4	病院概論 内容医療法、地域医療支援病院、特定機能病院、医薬分業
5	医療保障制度 患者一部負担金、療養担当規則、高額療養費
6	医療保障制度 患者一部負担金、療養担当規則、高額療養費
7	医療保障制度 患者一部負担金、療養担当規則、高額療養費
8	点数算定の原則 算定のルール
9	診療報酬診療区分（処方、注射、処置、手術、検査、画像等）
10	診療報酬診療区分（処方、注射、処置、手術、検査、画像等）
11	診療報酬診療区分（処方、注射、処置、手術、検査、画像等）
12	診療報酬診療区分（処方、注射、処置、手術、検査、画像等）
13	公費負担医療概要、制度の仕組み、生活保護法、難病法、感染症法等
14	総まとめ
15	試験
成績評価法	筆記試験、授業態度、出席状況等により総合判定する。
使用テキスト	オリジナルテキスト
備 考	

科目名	保険請求事務演習	担当教員		桐生 孝史 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

医療の現場において、患者に対して目的・状況に応じた適切な作業能力を養うことを目標とする。ケーススタディを多用し、さまざまなケースを模擬体験することにより、どのような作業が必要になるか学習していく。

授業目標

医療の帳票（診療録、診療報酬明細書、問診票など）の目的、利用方法、作成ができる

授業計画

1	オリエンテーション
2	診療の流れ 保健請求事務の種類
3	医療で用いる帳票
4	診療録の作成 カルテ1号紙、2号紙、3号紙、その他
5	問診票の作成
6	診療報酬とは 保健請求事務
7	レセプトの基礎知識 点数算定の原則
8	算定とレセプトの書き方 診察料（初診・再診・外来診察料）
9	算定とレセプトの書き方 医学管理・在宅医療
10	算定とレセプトの書き方 診療区分の詳細
11	算定とレセプトの書き方 診療区分の詳細
12	算定とレセプトの書き方 診療区分の詳細
13	算定とレセプトの書き方 診療区分の詳細
14	総まとめ
15	試験
成績評価法	筆記試験、実技試験、授業態度、出席状況等により総合判定する。
使用テキスト	オリジナルテキスト
備 考	

科目名	臨床医学総論	担当教員		上杉 洋一 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

日常見られる外傷に対する処置や救命法と日常の生活習慣や食事と免疫力の関わりを知る

授業目標

簡単な外傷に対する応急処置や救命法と日常の生活習慣から来る病気を知る事を目標とする

授業計画

1	包帯法 (1)
2	包帯法 (2)
3	主な骨折の整復固定法 (1)
4	主な骨折の整復固定法 (2)
5	主な脱臼の整復固定法
6	主な軟部損傷の処置法
7	救命法 (1)
8	救命法 (2)
9	免疫力を高める (1)
10	免疫力を高める (2)
11	免疫力を高める (3)
12	生活習慣病 (1)
13	生活習慣病 (2)
14	食事の基本形を知る
15	試験
成績評価法	出席50点、試験50点で評価する
使用テキスト	
備 考	

科目名	倫理学	担当教員		中條 秀憲 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	60	単位数	2

授業概要

この授業では、医療に関わる倫理的な問題について考え、医療現場で求められる倫理的判断力を養います。事例を用いたグループワーク等を通じて、視点を深め、医療従事者としての価値観を形成することを目指します。

授業目標

倫理の基本概念を理解し、重要なテーマについて、自分の意見を持ち、適切に議論できるようにします。異なる価値観を尊重し、コミュニケーションを円滑に行う能力と倫理的判断力を養う。

授業計画

1	倫理とは何か？－倫理の基本概念と歴史的背景－
2	価値観の違いと道徳－文化による倫理観の違い－
3	医療倫理の基本原則－自律尊重、善行、無危害、正義の4原則
4	ディスカッション「医療現場での倫理的ジレンマ」
5	患者の権利と医療従事者の責任について
6	患者の自己決定権－インフォームド・コンセントと説明義務－
7	守秘義務と個人情報保護－医療従事者の責任－
8	医療ミスと倫理－医療事故と責任問題－
9	ケーススタディ「終末期医療と患者の意思」
10	生と死の倫理－安楽死・尊厳死の倫理的問題－
11	臓器移植と倫理－提供者と受容者の問題－
12	出生前診断と倫理－優生思想のリスク－
13	遺伝子編集とクローン技術－科学技術と倫理－
14	ディスカッション「どこまで医療が介入すべきか」
15	医療資源の公平な分配－保険制度と医療のあり方－
16	パンデミックと倫理－優先医療と決定基準－
17	貧困と医療－医療格差とその解決策－
18	医療とAI－テクノロジーの進化と医療倫理－
19	ケーススタディ「医療崩壊とトリアージ」

20	異文化医療倫理-国ごとの医療の違い-
21	伝統医療と西洋医療の対立-価値観の違いを乗り越える
22	グローバルヘルスの倫理-WHOの役割と国際協力-
23	災害医療の倫理-緊急時に求められる判断-
24	ディスカッション「異文化中の医療を提供するには？」
25	ケーススタディ「医療と宗教的価値観」
26	ロールプレイ「医療現場での倫理的対話」
27	グループワーク「倫理的ジレンマの解決策を考える」
28	総まとめ「医療倫理を実践するために」
29	小テスト(復習と最終テスト対策)
30	試験
成績評価法	ディスカッションやグループワークへの積極性の小論文
使用テキスト	(プリント用意)
備 考	

科目名	患者論	担当教員		雨宮 一彦 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

人々は健康で安心した生活を願うものですが、時として病気になることがあります。患者論では、病気を疑った時や病気になった時に「患者自身が知っておくべきこと」や、「患者の心理、患者の生活課題と福祉、外国人の患者に対する医療場面における通訳などの支援」について学習します。

授業目標

- (1) 病気の分類を説明できる。
- (2) 病院の仕組みについて説明できる。
- (3) 現代の疾病と死因について説明できる。
- (4) 患者の心理について説明できる。
- (5) 患者との接し方について説明できる。
- (6) 患者の通訳の重要性を理解できる。

授業計画

1	病気と健康とは何か. 患者とは何か 病気の分類
2	患者の背景 WHO憲章と健康 病院の仕組み
3	生命 出生率 出産年齢 平均寿命
4	高齢社会の患者 死亡率 死亡原因の変遷
5	死亡原因の変化
6	生活習慣病と患者数
7	生活習慣病とその予防
8	患者支援 インフォームドコンセント エンパワメント コンプライアンス
9	患者と医療 コミュニケーションの分類 言語的と非言語的コミュニケーション
10	ジョハリの窓 アサーションとアサーティブな会話
11	対人距離・パーソナススペースとコミュニケーション
12	患者のQOL 患者の質問方法
13	患者の心理と援助 アドボカシー マズローの分類
14	フィンクの危機介入のプロセス キュブラーロスの受容プロセス
15	試験
成績評価法	レポートおよび試験の成績、受講態度、授業への出席率等で総合的に評価する。
使用テキスト	随時プリントを配布する。
備 考	配布されたプリントは保管しておくこと。

科目名	医療総論	担当教員		上杉 洋一 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

脳の高次機能や免疫、発生や生殖・老化を解剖学や生理学から学ぶ

授業目標

人間を人間たらしめる、精神神経機能や免疫、生殖・発生と老化を学び医療の心得を学ぶ

授業計画

1	医学概論
2	産科領域
3	婦人科領域
4	小児科領域
5	神経科領域
6	検査に関する基礎知識
7	神経系の構造と機能
8	脳と脊髄並びに末梢神経
9	運動機能と感覚機能並びに伝導路
10	眼・耳・味覚・嗅覚と疼痛
11	生体の防御機構
12	体温とその調節
13	生殖器並びに受精と発生
14	成長と老化
15	試験
成績評価法	出席点50点、試験50点で評価する
使用テキスト	
備 考	

科目名	保健医療論	担当教員		上杉 洋一 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

「健康」についての意義とその土台となる「生命の尊厳」を鑑み、医療としてのサイエンスを学ぶ。

授業目標

医療人としての心構えと保健・福祉、それに係わる各医療（保険）制度を具体的に学ぶ。

授業計画

1	健康とは－生命の尊厳を考える
2	ethics
3	医療・看護領域の特徴（宣言・条約など）
4	医療・看護領域の特徴（宣言・条約など）
5	医療と患者（QOL、ADL、PCUなど）
6	医療と患者（QOL、ADL、PCUなど）
7	living will、hospiceなど
8	医学史
9	医学史
10	救急救命
11	救急救命
12	医薬分業のシステム
13	医薬分業のシステム
14	医療保険のシステム
15	試験
成績評価法	授業態度、提出物及びテスト
使用テキスト	プリント配布
備 考	

科目名	コミュニケーション論	担当教員		中條 秀憲 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

仕事や日常生活で役立つコミュニケーションを学びます。言葉だけではなく、表情やジェスチャー、聞く力、伝える力を伸ばし、スムーズな人間関係を築く方法を実践的に学びます。

授業目標

1. 相手に伝わる話し方、聞き方を身に付ける
2. 職場や日常で役立つコミュニケーション技術を学ぶ
3. 異文化間のコミュニケーションのコツを知る

授業計画

1	コミュニケーションとは？-基本の考え方-
2	話し方のポイント-分かりやすく伝える-
3	聞く力を高める-相手を尊重する姿勢-
4	表情・ジェスチャーの使い方-非言語コミュニケーション-
5	敬語とビジネスマナー-職場での会話-
6	相手の気持ちを考える-共感とアサーション-
7	異文化コミュニケーション-日本と世界の違い-
8	トラブルを防ぐ会話術-誤解をなくす方法-
9	交渉と説得の技術-納得してもらう話し方-
10	チームワークとリーダーシップ-職場での協力-
11	クレーム対応のコツ-冷静に対応する力-
12	医療現場のコミュニケーション-患者対応の基本-
13	ケーススタディ-実践練習-
14	まとめと質疑応答-学びを振り返る-
15	試験
成績評価法	授業参加・発言40%小テスト30%・レポート30%
使用テキスト	印刷配布
備 考	

科目名	薬学概論	担当教員		桐生 孝史 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	45	単位数	1

授業概要

人体の構造や機能から診療に用いられる知識や技術を解説します。そのうえで、医療者と患者との人間関係をつなぐ医療情報を的確に伝えるために必要な知識を学びます。

授業目標

からだの構造と機能について基礎的な知識を身につけ、薬の基礎的な知識を身につける。

授業計画

1	オリエンテーション
2	人体の構造と機能 1 基礎
3	人体の構造と機能 2 心臓・血管系/消化器系/呼吸器系
4	人体の構造と機能 3 代謝系/感染症/精神・神経系
5	人体の構造と機能 4 その他
6	薬とは何か
7	世界の歴史、日本の歴史
8	医薬品 1 医薬品と健康食品/一般用医薬品
9	医薬品 2 西洋薬と漢方薬
10	医薬品 3 先発医薬品とジェネリック医薬品
11	薬の特徴 1 投与方法/剤形/薬剤の吸収・分布・代謝・排泄/服用時期
12	薬の特徴 2 投与方法/剤形/薬剤の吸収・分布・代謝・排泄/服用時期
13	薬の特徴 3 投与方法/剤形/薬剤の吸収・分布・代謝・排泄/服用時期
14	薬の特徴 4 投与方法/剤形/薬剤の吸収・分布・代謝・排泄/服用時期
15	薬の作用 1 薬の効果/飲み合わせ/嗜好品の影響/副作用
16	薬の作用 2 薬の効果/飲み合わせ/嗜好品の影響/副作用
17	薬の作用 3 薬の効果/飲み合わせ/嗜好品の影響/副作用
18	投与する際の注意 高齢者/小児/妊婦/授乳婦

19	よく用いられている薬	心臓・血管系/消化器系/呼吸器系
20	よく用いられている薬	代謝系/感染症/精神・神経系
21	よく用いられている薬	がん/その他
22	総まとめ	
23	試験	
成績評価法	筆記試験、授業態度、出席状況等により総合判定する。	
使用テキスト	オリジナルテキスト	
備 考		

科目名	国際関係法規概論	担当教員		雨宮 一彦 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	15	単位数	1
授業概要					
グローバル化が進む国際社会に対応できるように、国際関係の中での相互のルールとなる法についての概論を学習する。					
授業目標					
(1) 主権国家について説明できる。 (2) 国際連合について説明できる。 (3) 主要な条約について説明できる。 (4) 国際私法について説明できる。					
授業計画					
1	主権国家と領域				
2	世界の自然環境と法				
3	国際保健医療と法				
4	国際社会での教育と法				
5	国際経済と法				
6	国際犯罪と法				
7	婚姻と国際私法				
8	試験				
成績評価法	レポートおよび試験の成績、受講態度、授業への出席率等で総合的に評価する。				
使用テキスト	随時プリントを配布する。				
備 考	配布されたプリントは保管しておくこと。				

科目名	看護用語Ⅱ	担当教員			
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

看護にまつわる言葉の整理

授業目標

病院で使用する用語をマスターする。

授業計画

1	看護用語Ⅰ 復習
2	” ”
3	病院の言葉 ①
4	病院の言葉 ②
5	検査の言葉 ①
6	検査の言葉 ②
7	薬の言葉 ①
8	薬の言葉 ②
9	病気の言葉 ①
10	病気の言葉 ②
11	患者とのコミュニケーション ①
12	患者とのコミュニケーション ②
13	病院で働く人とのコミュニケーション ①
14	病院で働く人とのコミュニケーション ②
15	試験
成績評価法	筆記+平常点
使用テキスト	必要に応じて資料を配布
備 考	

科目名	看護基礎実習Ⅰ	担当教員			
学年・学期	2年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

生活援助技術の意義と方法を学び関連する看護技術を習得する。

授業目標

1. 環境調整技術について理解し、活用できる。
2. 清潔・衣生活援助技術について理解し活用できる。

授業計画

1	環境調整技術Ⅰ	援助の基礎知識 ①療養生活の環境
2	環境調整技術Ⅱ	②病室の環境アセスメントと調整 ・病室、病床の選択・温度・湿度・光と音
3	環境調整技術Ⅲ	援助の実際 ①ベッドの周囲の環境整備 ②病床を整える ・マットレス、枕の条件・ベッドメイキング・リネン交換
4	環境調整技術Ⅳ【演習】	ベッド周囲の環境整備一病室、病床の選択 リネン類の種類、シーツのたたみ方
5	環境調整技術Ⅴ【演習】	ベッドメイキング
6	環境調整技術Ⅵ【演習】	ベッドメイキング
7	環境調整技術Ⅶ【演習】 【実技チェック】	技術チェック〈しわのない、くずれにくいベッドをつくる〉
8	清潔・衣生活援助技術Ⅰ	清潔の援助 ①清潔の援助の基礎知識 ②清潔の援助の実際
9	清潔・衣生活援助技術Ⅱ	病床での衣生活の援助 ①援助の基礎知識 ②援助の実際
10	清潔・衣生活援助技術Ⅲ 【演習】	清潔の援助の実際・全身清拭・病衣の交換
11	清潔・衣生活援助技術Ⅳ 【演習】	清潔援助の実際・整容・洗髪
12	清潔・衣生活援助技術Ⅴ 【演習】	清潔の援助の実際・足浴・手浴
13	清潔・衣生活援助技術Ⅵ 【演習】	清潔の援助の実際・陰部洗浄
14	清潔・衣生活援助技術Ⅶ 【演習】【実技テスト】	【実技テスト】〈全身清拭および病衣交換〉
15	試験	筆記試験
成績評価法		1. 筆記試験(90%) 2. 授業への参加態度・状況(10%)
使用テキスト		有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社) 必要に応じて講義資料を配布する
備 考		

科目名	応用実習	担当教員			
学年・学期	2年・後期	時間数	60	単位数	2

授業概要

看護技術のまとめ

授業目標

看護助手として働けるようにする

授業計画

1	感染防止技術Ⅰ	感染防止その防止基礎知識 標準予防策(スタンダードプリコーション) 感染経路予防策
2	感染防止技術Ⅱ	日常的手洗い・衛生学的手洗い ガウンテクニック
3	活動・休息援助技術Ⅰ	基本的活動の援助口 ①基本的活動の基礎知識 ②体位
4	活動・休息援助技術Ⅱ	③移動一体位変換・歩行・移乗・移送
5	活動・休息援助技術Ⅲ	・体位変換
6	活動・休息援助技術Ⅳ	・車いす移乗と移送 ・ストレッチャー
7	「癒し」の懸念 「癒し」と看護	「癒し」とは。 「癒し」と看護
8	「癒し」のメカニズム	自律神経系・内分泌系のはたらき 五感への働きかけ
9	「癒し」の種類・方法	アロマテラピー・ヒーリング・音楽療法・タッチング 他
10	「癒し」の体験	ヒーリング
11	「癒し」の体験	アロマテラピー リフレクソロジー
12	「癒し」の実践	整膚
13	「癒し」の実践とまとめ	「癒し」を看護に活かすには
14	環境調整技術	環境の概念 環境構成要素と環境調整
15	環境調整技術	病床環境の調整 リネン類の扱い方、リネン交換の基本
16	環境調整技術	ベッドメイキング
17		
18		

19	環境調整技術	臥床患者のリネン交換 病床環境調整
20		
21		
22	学習支援	看護技術における学習支援 健康生活を支える学習支援 健康状態の変化に伴う学習支援 学習支援の実際
23	清潔・衣生活援助技術	清潔の援助 病床での衣生活の援助
24	清潔・衣生活援助技術	手浴・足浴
25		ケリーバッドを用いた洗髪
26		
27		
28		全身清拭と寝衣交換
29		
30		
成績評価法		
使用テキスト		
備 考		

科目名	日本語会話	担当教員		木原 敦 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

N2レベルの語彙・文法を使った会話練習、ロールプレイング
JLPT対策 聴解、読解

授業目標

N2レベルの会話をスムーズに
社会人としてや、職場でのアカデミックな語彙を用いた会話の理解

授業計画

1	オリエンテーション プレースメントテスト
2	場面による会話 交通機関 ①
3	" ②
4	病院、薬局①
5	" ②
6	不動産 ①
7	" ②
8	JLPT対策(文字、語彙)+ロールプレイ
9	電話対応 ①
10	" ②
11	JLPT対策(読解)+ロールプレイ
12	緊急事態 ①
13	" ②
14	復習
15	試験
成績評価法	出席率/テスト成績
使用テキスト	シャドーイング日本語を話そう 中級から上級への日本語会話
備 考	

科目名	読解	担当教員		町田 純子 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

日本語能力試験に挑戦し合格する為の読解力を身に付けます。

授業目標

日常生活やビジネスの現場で使われる日本語がある程度理解できるレベル(N2)まで内容理解を深めます。又、言語知識を元に、限られた時間内で文章を読み、ポイントをつかむことができるようになります。

授業計画

1	ガイダンスと自己紹介及び読解のポイント
2	新聞の記事を読む(NHK “NEWS WEB EASY”)
3	雑誌を読む
4	”
5	資料を読む
6	”
7	著者の意図を理解する
8	”
9	自然な速さで話される会話を理解する
10	”
11	登場人物の関係性を理解する
12	”
13	提示資料の要点の要点を理解する
14	まとめ
15	試験
成績評価法	(毎回の課題提出) 40%+ (試験) 60%
使用テキスト	オンライン映像や、プリント配布
備 考	(漢字、文法の習得の為の、毎日の自主学習を含みます)

科目名	聴解	担当教員		木原 敦 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

JLPT対策として聴解問題の形式の理解
問題集を使用して実践と解説

授業目標

N2合格レベルの聴解力を身に付ける

授業計画

1	オリエンテーション/聴解分野の説明/問題理解	
2	傾向と対策	① テーマ 課題問題/頻出単語
3		② テーマ 課題問題/頻出単語
4		③ テーマ ポイント理解/頻出単語
5		④ テーマ ポイント理解/頻出単語
6		⑤ 概要理解/頻出単語
7		⑥ 概要理解/頻出単語
8		⑦ 発説表現/頻出単語
9		⑧ 即時応答/頻出単語
10		⑨ 統合理解/頻出単語
11		⑩ 統合理解/頻出単語
12	復習1	問題1～2
13	復習2	問題3、4
14	復習3	問題5
15	試験	
成績評価法	出席率/テスト成績	
使用テキスト	日本語能力試験N2 新完全マスター聴解	
備 考		

科目名	産業ビジネスⅡ	担当教員		島村定充 先生	
学年・学期	2年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

観光地の分布、立地、観光資源、観光産業との関わり、観光地の環境保全や世界遺産などに留意しつつ、温泉、海浜、避寒・避暑、都市、田園、山岳など、観光活動が自然地理的資源、人文地理的資源を利用して誕生・発展してきたかを学ぶ。

授業目標

日本には多くの観光地が存在する。講義の内容に留まらず、興味を持った観光地を自ら調べ、説明することができるようになる。

授業計画

1	オリエンテーション、日本全土について①
2	日本全土について②
3	北海道地方の地理歴史
4	東北地方の地理歴史（青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島）
5	関東地方の地理歴史（群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川）
6	中部地方の地理歴史（新潟・富山・石川・福井・岐阜・滋賀）
7	中部地方の地理歴史（長野・山梨・静岡・愛知）
8	関西地方の地理歴史（京都・奈良）
9	関西地方の地理歴史（三重・和歌山・大阪・兵庫）
10	中国地方の地理歴史（鳥取・島根・岡山・広島・山口）
11	四国地方の地理歴史（香川・徳島・愛媛・高知）
12	九州地方の地理歴史（福岡・佐賀・長崎・熊本）
13	九州地方・沖縄の地理歴史（大分・宮崎・鹿児島・沖縄）
14	演習
15	試験
成績評価法	受講態度30%、中間試験30%、期末試験40%を目安に総合的に評価
使用テキスト	必要に応じてレジュメを配布する
備 考	受講者の理解度により、講義の順番や重点を変えることがある。

科目名	社会福祉概論	担当教員		中條 秀憲 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

社会福祉の基本を学び、日本の福祉制度や支援の仕組みを理解します。身近な事例やグループワークを通じて学びます。

授業目標

1. 社会福祉の基本を理解する
2. 日本の福祉制度を学ぶ
3. 福祉の課題について考える

授業計画

1	社会福祉とは？-福祉の基本概念を学ぶ-
2	日本の社会福祉制度の全体像-社会保障との関係-
3	高齢者福祉-介護保険と高齢者支援-
4	障害者福祉-障害者の生活と就労支援-
5	児童福祉-子どもの権利と支援制度-
6	生活困窮者支援-生活保護と自立支援-
7	医療と福祉-医療制度と福祉の連携-
8	福祉の現場見学・事例学習-実際の支援を知る-
9	国際比較-日本と世界の福祉制度-
10	社会福祉の課題と倫理-支援と自己責任-
11	地域福祉とボランティア-地域のつながりと支え-
12	未来の福祉-AI・テクノロジーの活用-
13	まとめとディスカッション-福祉の可能性を考える-
14	実践演習(ロールプレイ)-福祉の現場-
15	試験
成績評価法	授業参加・発言30%、小テスト・課題40%、レポート30%
使用テキスト	(配布)
備 考	

科目名	ホスピタリティⅡ	担当教員		学科内部教員	
学年・学期	2年・後期	時間数	15	単位数	1

授業概要

「ホスピタリティⅠ」で学んだ事を踏まえ、さまざまな場面におけるホスピタリティと日本文化のひとつである「おもてなし」の心を理解する。

授業目標

さまざまな場面におけるホスピタリティを学び、実体験を通して日本文化のひとつである「おもてなし」の理解を深める。

授業計画

1	講義オリエンテーション
2	「ホスピタリティ」「サービス」「おもてなし」の概念
3	体験学習（Ⅰ）
4	体験学習（Ⅱ）
5	体験学習（Ⅲ）
6	体験学習（Ⅳ）
7	体験学習の発表
8	まとめ
成績評価法	普段の授業を平常点100として評価する。
使用テキスト	特になし
備 考	

X-IV 2 年 PM クラス

科目名	職業指導Ⅱ	担当教員		島村定充 先生	
学年・学期	2年 前期・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

「自分らしい生き方における、自分らしい働き方」を見つけるために、学生が主体的に進路選択について考え、働くことの意味を理解し、自らのワーク・ライフ・インテグレーションを確立できるようにする。

授業目標

進路指導(職業指導)と各学生の進路について、実践を通してその課題と望ましい在り方について考えていく。

授業計画

1	オリエンテーション・日本における就職活動
2	ワーク・ライフ・インテグレーション
3	職業を考える 簡易業界・職業研究②
4	職業を考える 簡易企業・職種研究②
5	合同企業説明会①
6	合同企業説明会②
7	合同企業説明会③
8	面接指導①
9	面接指導②
10	面接指導③
11	応募書類の書き方①
12	応募書類の書き方②
13	関係法規・手続き
14	就職試験対策①
15	就職試験対策②
成績評価法	受講態度30%、課題30%、実技・発表40%を目安に総合的に評価
使用テキスト	必要に応じてレジュメを配布する
備 考	受講者の理解度により、講義の順番や重点を変えることがある。

科目名	情報処理	担当教員		小久保 仁志 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	15	単位数	1

授業概要

1年次に学習したWordおよびExcelの基礎を踏まえ、実務に近い形でのドキュメント作成や表計算の応用力を養います。実際の仕事を想定した課題に取り組みながら、より効率的で正確な文書作成・データ管理スキルを身につけます。授業は演習中心で、日本語スキルも自然に向上することを目指します。

授業目標

- ・ WordおよびExcelの基本操作を再確認し、応用的な操作まで到達する
- ・ 日本語表現を理解しながら、指示に従って文書・資料を正確に作成できる
- ・ 就職後を想定したレポートや表現の作成ができる
- ・ 自立して課題に取り組む力を養い、成果物として提出できる

授業計画

1	ガイダンス・自己評価・Word復習(文字入力、保存、書式)
2	Word応用①：スタイル、目次、ページ設定
3	Word応用②：表の作成、画像や図形の挿入、SmartArt活用
4	Excel復習(セルの書式設定、罫線、列行操作、オートフィル)
5	Excel応用①：関数(SUM, AVERAGE, IF)とグラフの作成
6	Excel応用②：並べ替え、フィルター、条件付き書式
7	総合課題：就職後を想定したシナリオを用いた文書・表作成
8	試験
成績評価法	最終テスト:70%、授業内課題:10%、出席・態度:20%
使用テキスト	留学生のためのWordドリルブック 留学生のためのExcelドリルブック
備 考	

科目名	プレゼンテーション	担当教員		小久保 仁志 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

PowerPointを活用した「伝える力」「見せる工夫」を身につけることを目的に、プレゼンテーション資料の作成から発表までの一連の流れを実践的に学びます。スライドの構成や視覚効果の活用、話し方や原稿の書き方など、社会生活において求められるプレゼン力を総合的に育てます。

授業目標

- ・PowerPointの基本操作(スライド作成、編集、図形・画像の挿入など)を理解し使いこなす。
- ・見やすく伝わりやすい資料作成のコツを理解する
- ・日本語を使った簡潔で明確なプレゼンができるようになる

授業計画

1	ガイダンス・PowerPointの基礎(画面構成、保存、入力)
2	箇条書き・スライドの追加と並べ替え・レイアウト
3	スライドデザイン、配色、フォント変更
4	表や画像の挿入と編集
5	グラフとSmartArtの作成と編集
6	テキストボックス、アニメーション、画面切り替え
7	発表用ノート・配布資料の作成と印刷(PDF保存)
8	発表者ツールの使用、発表リハーサル
9	発表の構成を考える：伝えたいこと・順番・強調
10	実践課題：1テーマで3枚スライド(課題提出)
11	発表準備：発表原稿作成と読み上げ練習
12	発表練習①：個人発表とフィードバック(1)
13	発表練習②：個人発表とフィードバック(2)
14	まとめ・発表資料の完成と提出
15	試験
成績評価法	最終テスト：70%、授業内課題：10%、出席・態度：20%
使用テキスト	留学生のためのPowerPointドリルブック、できるPowerPoint2021office2021&Microsoft365両対応、プレゼンテーション演習
備 考	

科目名	秘書概論	担当教員		高木 敬子 先生	
学年・学期	2年 後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

秘書業務を通じて、職業人に求められる資質や役割について学ぶ。
また、知識を得るだけにとどまらず、現場で実践できるような知識と技術が習得できる内容とする。

授業目標

社会人に必要な基礎的なスキルを学習することにより、実践力を高め、職場において良好な人間関係を構築できるようになることを目指す。

1	ガイダンス 講義方法及び内容、評価についての説明 秘書とは
2	秘書の資質（秘書の心構え）
3	秘書の資質（求められる資質）
4	職務知識（秘書の機能と役割）
5	一般知識①
6	一般知識②
7	中間テスト
8	マナー・接遇（人間関係と話し方・聞き方）
9	マナー・接遇（電話応対・来客接遇）
10	マナー・接遇（慶弔時のマナー・贈答のマナーのマナー）
11	マナー・接遇（文書の取り扱い・郵便の知識）
12	マナー・接遇（敬語と接遇用語）
13	社会人にふさわしい言葉遣い①
14	社会人にふさわしい言葉遣い②
15	試 験
成績評価法	受講態度30％、中間試験30％、期末試験40％を目安に総合的に評価
使用テキスト	必要に応じてレジュメを配布する
備 考	受講者の理解度により、講義の順番や重点を変えることがある。

科目名	現代社会	担当教員		中條 秀憲 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

現代社会の仕組みや課題について学び、日本と世界の社会問題を比較しながら、理解を深める。政治、経済、環境、福祉、テクノロジーなど、多様な視点から学ぶ。

授業目標

1. 現代社会の基本的な構造を理解する
2. 日本と世界の社会問題について考える
3. 自分の意見を持ち、議論できる力を養う

授業計画

1	現代社会とは？-社会の変化と課題
2	グローバル化と日本-国際社会とのつながり-
3	日本の政治・選挙制度-民主主義の仕組み-
4	日本の経済システム-市場経済と労働問題-
5	社会保障と福祉-少子高齢化と福祉制度-
6	環境問題を持続可能な社会-SDGS視点-
7	テクノロジーと現代社会-AI・デジタル社会-
8	多文化共生と移民問題-異文化理解と共存-
9	労働とライフスタイル-働き方改革とは？-
10	ジェンダーと社会-男女平等と多様性の理解-
11	医療と社会-医療制度の公衆衛生の役割
12	防災と安全な社会-災害対策リスク管理
13	メディアと情報社会-SWSフェイクニュース-
14	現代社会の未来-これからの社会を考える-
15	試験
成績評価法	授業参加・発言40%・小テスト30%・最終レポート30%
使用テキスト	(配布)
備 考	

科目名	数理リテラシー	担当教員		東 正次郎 先生	
学年・学期	2年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

教育内容は、基本的な数学的概念や計算機能を育成し、実生活での問題解決に役立てることを目指します。数値の理解、データの解析、図形の認識、論理的思考など通じて、数学を日常生活に応用する力を養います。

授業目標

- ①確率の基礎的内容について理解する。
- ②様々な条件での事情についての確率計算を習熟する。
- ③日常生活での行動に、論理的思考などを通じて、数学を応用する。

授業計画

1	基本的な数学的概念や、実生活での数学の応用
2	数学的思考による判断および行動についての演習
3	集合
4	集合問題の演習
5	場合の数
6	場合の数の和の法則と積の法則
7	順列
8	いろいろな順列の問題演習
9	組合せ
10	組合わせの利用
11	事象と確率
12	独立な思考の確率、反復思考の確率、条件付確率
13	期待値
14	総合問題演習
15	試験
成績評価法	平常点40点、試験60点
使用テキスト	プリント【留学生のための確率のはなし】
備 考	

科目名	医事コンピュータ	担当教員		町田 一哉 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	15	単位数	1

授業概要

医療事務で重要とされるコンピュータの基礎知識や技能をもとに
医療機関の情報の流れを読み取る

授業目標

医療事務コンピュータの基本を熟知し、実務に就いた時あわてることなく、即戦力として適応する力を身につける

授業計画

1	コンピュータの基本表現：今日んぴゅーたの種類・基本表現
2	コンピュータの仕組みと動作
3	インターネットと情報活用：ネットワークの基本とインターネット
4	情報活用の基本：ファイルの種類と保存形式
5	ネットワークとセキュリティ
6	セキュリティ対策とプライバシー保護
7	個人情報保護と権利の保護に関する法律
8	試験
成績評価法	最終試験の結果・出席状況・小テストの結果を合わせて評価
使用テキスト	ケアアンドコミュニケーション 医事コンピュータ検定問題集2級 2024年度版
備 考	

科目名	電子カルテ	担当教員		町田 一哉 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

電子化された診療録を用いて、医療機関の各種システムと連携もついて理解する

授業目標

医療機関におけるコンピュータを利用した診療情報処理を理解する
医療機関における診療情報のながれに触れ、レセコン・電子カルテ等のシステムがどのように繋がっているか理解する

授業計画

1	電子カルテとは
2	医療情報化の歴史 I
3	電子カルテシステム利用1
4	電子カルテシステム利用2
5	電子カルテシステム利用3
6	カルテ記載
7	クリティカルパス
8	オーダリングシステム
9	部門システム1
10	部門システム2
11	部門システム3
12	情報セキュリティ2
13	情報セキュリティ
14	個人情報保護
15	試験
成績評価法	最終試験の結果・出席状況・小テストの結果を合わせて評価
使用テキスト	医療事務職のための電子カルテ入門 パーソン書房
備 考	視聴覚教室使用

科目名	保険請求事務総論	担当教員		桐生 孝史 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

医療で一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学び保険請求に必要な算定ルールを学ぶ

授業目標

医療チームの一員として事務系職員は大事なパートを担っている。豊富な専門性を持って対応する事が求められこの教科では専門職としての医学の基礎を身につける

授業計画

1	オリエンテーション
2	医療用語 1 一般的なもの
3	医療用語 2 専門的なもの
4	病院概論 内容医療法、地域医療支援病院、特定機能病院、医薬分業
5	医療保障制度 患者一部負担金、療養担当規則、高額療養費
6	医療保障制度 患者一部負担金、療養担当規則、高額療養費
7	医療保障制度 患者一部負担金、療養担当規則、高額療養費
8	点数算定の原則 算定のルール
9	診療報酬診療区分（処方、注射、処置、手術、検査、画像等）
10	診療報酬診療区分（処方、注射、処置、手術、検査、画像等）
11	診療報酬診療区分（処方、注射、処置、手術、検査、画像等）
12	診療報酬診療区分（処方、注射、処置、手術、検査、画像等）
13	公費負担医療概要、制度の仕組み、生活保護法、難病法、感染症法等
14	総まとめ
15	試験
成績評価法	筆記試験、授業態度、出席状況等により総合判定する。
使用テキスト	オリジナルテキスト
備 考	

科目名	保険請求事務演習	担当教員		桐生 孝史 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

医療の現場において、患者に対して目的・状況に応じた適切な作業能力を養うことを目標とする。ケーススタディを多用し、さまざまなケースを模擬体験することにより、どのような作業が必要になるか学習していく。

授業目標

医療の帳票（診療録、診療報酬明細書、問診票など）の目的、利用方法、作成ができる

授業計画

1	オリエンテーション
2	診療の流れ 保健請求事務の種類
3	医療で用いる帳票
4	診療録の作成 カルテ1号紙、2号紙、3号紙、その他
5	問診票の作成
6	診療報酬とは 保健請求事務
7	レセプトの基礎知識 点数算定の原則
8	算定とレセプトの書き方 診察料（初診・再診・外来診察料）
9	算定とレセプトの書き方 医学管理・在宅医療
10	算定とレセプトの書き方 診療区分の詳細
11	算定とレセプトの書き方 診療区分の詳細
12	算定とレセプトの書き方 診療区分の詳細
13	算定とレセプトの書き方 診療区分の詳細
14	総まとめ
15	試験
成績評価法	筆記試験、実技試験、授業態度、出席状況等により総合判定する。
使用テキスト	オリジナルテキスト
備 考	

科目名	臨床医学総論	担当教員	上杉 洋一 先生
学年・学期	2年・後期	時間数	30
		単位数	1

授業概要

日常見られる外傷に対する処置や救命法と日常の生活習慣や食事と免疫力の関わりを知る

授業目標

簡単な外傷に対する応急処置や救命法と日常の生活習慣から来る病気を知る事を目標とする

授業計画

1	包帯法 (1)
2	包帯法 (2)
3	主な骨折の整復固定法 (1)
4	主な骨折の整復固定法 (2)
5	主な脱臼の整復固定法
6	主な軟部損傷の処置法
7	救命法 (1)
8	救命法 (2)
9	免疫力を高める (1)
10	免疫力を高める (2)
11	免疫力を高める (3)
12	生活習慣病 (1)
13	生活習慣病 (2)
14	食事の基本形を知る
15	試験
成績評価法	出席50点、試験50点で評価する
使用テキスト	
備 考	

科目名	倫理学	担当教員		中條 秀憲 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	60	単位数	2

授業概要

この授業では、医療に関わる倫理的な問題について考え、医療現場で求められる倫理的判断力を養います。事例を用いたグループワーク等を通じて、視点を深め、医療従事者としての価値観を形成することを目指します。

授業目標

倫理の基本概念を理解し、重要なテーマについて、自分の意見を持ち、適切に議論できるようにします。異なる価値観を尊重し、コミュニケーションを円滑に行う能力と倫理的判断力を養う。

授業計画

1	倫理とは何か？－倫理の基本概念と歴史的背景－
2	価値観の違いと道徳－文化による倫理観の違い－
3	医療倫理の基本原則－自律尊重、善行、無危害、正義の4原則
4	ディスカッション「医療現場での倫理的ジレンマ」
5	患者の権利と医療従事者の責任について
6	患者の自己決定権－インフォームド・コンセントと説明義務－
7	守秘義務と個人情報保護－医療従事者の責任－
8	医療ミスと倫理－医療事故と責任問題－
9	ケーススタディ「終末期医療と患者の意思」
10	生と死の倫理－安楽死・尊厳死の倫理的問題－
11	臓器移植と倫理－提供者と受容者の問題－
12	出生前診断と倫理－優生思想のリスク－
13	遺伝子編集とクローン技術－科学技術と倫理－
14	ディスカッション「どこまで医療が介入すべきか」
15	医療資源の公平な分配－保険制度と医療のあり方－
16	パンデミックと倫理－優先医療と決定基準－
17	貧困と医療－医療格差とその解決策－
18	医療とAI－テクノロジーの進化と医療倫理－
19	ケーススタディ「医療崩壊とトリアージ」

20	異文化医療倫理-国ごとの医療の違い-
21	伝統医療と西洋医療の対立-価値観の違いを乗り越える
22	グローバルヘルスの倫理-WHOの役割と国際協力-
23	災害医療の倫理-緊急時に求められる判断-
24	ディスカッション「異文化中の医療を提供するには？」
25	ケーススタディ「医療と宗教的価値観」
26	ロールプレイ「医療現場での倫理的対話」
27	グループワーク「倫理的ジレンマの解決策を考える」
28	総まとめ「医療倫理を実践するために」
29	小テスト(復習と最終テスト対策)
30	試験
成績評価法	ディスカッションやグループワークへの積極性の小論文
使用テキスト	(プリント用意)
備 考	

科目名	患者論	担当教員		雨宮 一彦 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

人々は健康で安心した生活を願うものですが、時として病気になることがあります。患者論では、病気を疑った時や病気になった時に「患者自身を知っておくべきこと」や、「患者の心理、患者の生活課題と福祉、外国人の患者に対する医療場面における通訳などの支援」について学習します。

授業目標

- (1) 病気の分類を説明できる。
- (2) 病院の仕組みについて説明できる。
- (3) 現代の疾病と死因について説明できる。
- (4) 患者の心理について説明できる。
- (5) 患者との接し方について説明できる。
- (6) 患者の通訳の重要性を理解できる。

授業計画

1	病気と健康とは何か、患者とは何か 病気の分類
2	患者の背景 WHO憲章と健康 病院の仕組み
3	生命 出生率 出産年齢 平均寿命
4	高齢社会の患者 死亡率 死亡原因の変遷
5	死亡原因の変化
6	生活習慣病と患者数
7	生活習慣病とその予防
8	患者支援 インフォームドコンセント エンパワメント コンプライアンス
9	患者と医療 コミュニケーションの分類 言語的と非言語的コミュニケーション
10	ジョハリの窓 アサーションとアサーティブな会話
11	対人距離・パーソナルスペースとコミュニケーション
12	患者のQOL 患者の質問方法
13	患者の心理と援助 アドボカシー マズローの分類
14	フィンの危機介入のプロセス キュブラーロスの受容プロセス
15	試験
成績評価法	レポートおよび試験の成績、受講態度、授業への出席率等で総合的に評価する。
使用テキスト	随時プリントを配布する。
備 考	配布されたプリントは保管しておくこと。

科目名	医療総論	担当教員		上杉 洋一 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

脳の高次機能や免疫、発生や生殖・老化を解剖学や生理学から学ぶ

授業目標

人間を人間たらしめる、精神神経機能や免疫、生殖・発生と老化を学び医療の心得を学ぶ

授業計画

1	医学概論
2	産科領域
3	婦人科領域
4	小児科領域
5	神経科領域
6	検査に関する基礎知識
7	神経系の構造と機能
8	脳と脊髄並びに末梢神経
9	運動機能と感覚機能並びに伝導路
10	眼・耳・味覚・嗅覚と疼痛
11	生体の防御機構
12	体温とその調節
13	生殖器並びに受精と発生
14	成長と老化
15	試験
成績評価法	出席点50点、試験50点で評価する
使用テキスト	
備 考	

科目名	保健医療論	担当教員	上杉 洋一 先生
学年・学期	2年・前期	時間数	30
		単位数	1

授業概要

「健康」についての意義とその土台となる「生命の尊厳」を鑑み、医療としてのサイエンスを学ぶ。

授業目標

医療人としての心構えと保健・福祉、それに係わる各医療（保険）制度を具体的に学ぶ。

授業計画

1	健康とは－生命の尊厳を考える
2	ethics
3	医療・看護領域の特徴（宣言・条約など）
4	医療・看護領域の特徴（宣言・条約など）
5	医療と患者（QOL、ADL、PCUなど）
6	医療と患者（QOL、ADL、PCUなど）
7	living will、hospiceなど
8	医学史
9	医学史
10	救急救命
11	救急救命
12	医薬分業のシステム
13	医薬分業のシステム
14	医療保険のシステム
15	試験
成績評価法	授業態度、提出物及びテスト
使用テキスト	プリント配布
備 考	

科目名	コミュニケーション論	担当教員		中條 秀憲 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

仕事や日常生活で役立つコミュニケーションを学びます。言葉だけではなく、表情やジェスチャー、聞く力、伝える力を伸ばし、スムーズな人間関係を築く方法を実践的に学びます。

授業目標

1. 相手に伝わる話し方、聞き方を身に付ける
2. 職場や日常で役立つコミュニケーション技術を学ぶ
3. 異文化間のコミュニケーションのコツを知る

授業計画

1	コミュニケーションとは？-基本の考え方-
2	話し方のポイント-分かりやすく伝える-
3	聞く力を高める-相手を尊重する姿勢-
4	表情・ジェスチャーの使い方-非言語コミュニケーション-
5	敬語とビジネスマナー-職場での会話-
6	相手の気持ちを考える-共感とアサーション-
7	異文化コミュニケーション-日本と世界の違い-
8	トラブルを防ぐ会話術-誤解をなくす方法-
9	交渉と説得の技術-納得してもらう話し方-
10	チームワークとリーダーシップ-職場での協力-
11	クレーム対応のコツ-冷静に対応する力-
12	医療現場のコミュニケーション-患者対応の基本-
13	ケーススタディ-実践練習-
14	まとめと質疑応答-学びを振り返る-
15	試験
成績評価法	授業参加・発言40%小テスト30%・レポート30%
使用テキスト	印刷配布
備 考	

科目名	薬学概論	担当教員		桐生 孝史 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	45	単位数	1

授業概要

人体の構造や機能から診療に用いられる知識や技術を解説します。そのうえで、医療者と患者との人間関係をつなぐ医療情報を的確に伝えるために必要な知識を学びます。

授業目標

からだの構造と機能について基礎的な知識を身につけ、薬の基礎的な知識を身につける。

授業計画

1	オリエンテーション
2	人体の構造と機能 1 基礎
3	人体の構造と機能 2 心臓・血管系/消化器系/呼吸器系
4	人体の構造と機能 3 代謝系/感染症/精神・神経系
5	人体の構造と機能 4 その他
6	薬とは何か
7	世界の歴史、日本の歴史
8	医薬品 1 医薬品と健康食品/一般用医薬品
9	医薬品 2 西洋薬と漢方薬
10	医薬品 3 先発医薬品とジェネリック医薬品
11	薬の特徴 1 投与方法/剤形/薬剤の吸収・分布・代謝・排泄/服用時期
12	薬の特徴 2 投与方法/剤形/薬剤の吸収・分布・代謝・排泄/服用時期
13	薬の特徴 3 投与方法/剤形/薬剤の吸収・分布・代謝・排泄/服用時期
14	薬の特徴 4 投与方法/剤形/薬剤の吸収・分布・代謝・排泄/服用時期
15	薬の作用 1 薬の効果/飲み合わせ/嗜好品の影響/副作用
16	薬の作用 2 薬の効果/飲み合わせ/嗜好品の影響/副作用
17	薬の作用 3 薬の効果/飲み合わせ/嗜好品の影響/副作用
18	投与する際の注意 高齢者/小児/妊婦/授乳婦

19	よく用いられている薬 心臓・血管系/消化器系/呼吸器系
20	よく用いられている薬 代謝系/感染症/精神・神経系
21	よく用いられている薬 がん/その他
22	総まとめ
23	試験
成績評価法	筆記試験、授業態度、出席状況等により総合判定する。
使用テキスト	オリジナルテキスト
備 考	

科目名	国際関係法規概論	担当教員		雨宮 一彦 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	15	単位数	1
授業概要					
グローバル化が進む国際社会に対応できるように、国際関係の中での相互のルールとなる法についての概論を学習する。					
授業目標					
(1) 主権国家について説明できる。 (2) 国際連合について説明できる。 (3) 主要な条約について説明できる。 (4) 国際私法について説明できる。					
授業計画					
1	主権国家と領域				
2	世界の自然環境と法				
3	国際保健医療と法				
4	国際社会での教育と法				
5	国際経済と法				
6	国際犯罪と法				
7	婚姻と国際私法				
8	試験				
成績評価法	レポートおよび試験の成績、受講態度、授業への出席率等で総合的に評価する。				
使用テキスト	随時プリントを配布する。				
備 考	配布されたプリントは保管しておくこと。				

科目名	看護用語Ⅱ	担当教員			
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

看護にまつわる言葉の整理

授業目標

病院で使用する用語をマスターする。

授業計画

1	看護用語Ⅰ 復習
2	〃 〃
3	病院の言葉 ①
4	病院の言葉 ②
5	検査の言葉 ①
6	検査の言葉 ②
7	薬の言葉 ①
8	薬の言葉 ②
9	病気の言葉 ①
10	病気の言葉 ②
11	患者とのコミュニケーション ①
12	患者とのコミュニケーション ②
13	病院で働く人とのコミュニケーション ①
14	病院で働く人とのコミュニケーション ②
15	試験
成績評価法	筆記+平常点
使用テキスト	必要に応じて資料を配布
備 考	

科目名	看護基礎実習Ⅰ	担当教員	
学年・学期	2年・後期	時間数	30
		単位数	1

授業概要

生活援助技術の意義と方法を学び関連する看護技術を習得する。

授業目標

1. 環境調整技術について理解し、活用できる。
2. 清潔・衣生活援助技術について理解し活用できる。

授業計画

1	環境調整技術Ⅰ	援助の基礎知識 ①療養生活の環境
2	環境調整技術Ⅱ	②病室の環境アセスメントと調整 ・病室、病床の選択・温度・湿度・光と音
3	環境調整技術Ⅲ	援助の実際 ①ベッドの周囲の環境整備 ②病床を整える ・マットレス、枕の条件・ベッドメイキング・リネン交換
4	環境調整技術Ⅳ【演習】	ベッド周囲の環境整備—病室、病床の選択 リネン類の種類、シーツのたたみ方
5	環境調整技術Ⅴ【演習】	ベッドメイキング
6	環境調整技術Ⅵ【演習】	ベッドメイキング
7	環境調整技術Ⅶ【演習】 【実技チェック】	技術チェック〈しわのない、くずれにくいベッドをつくる〉
8	清潔・衣生活援助技術Ⅰ	清潔の援助 ①清潔の援助の基礎知識 ②清潔の援助の実際
9	清潔・衣生活援助技術Ⅱ	病床での衣生活の援助 ①援助の基礎知識 ②援助の実際
10	清潔・衣生活援助技術Ⅲ 【演習】	清潔の援助の実際・全身清拭・病衣の交換
11	清潔・衣生活援助技術Ⅳ 【演習】	清潔援助の実際・整容・洗髪
12	清潔・衣生活援助技術Ⅴ 【演習】	清潔の援助の実際・足浴・手浴
13	清潔・衣生活援助技術Ⅵ 【演習】	清潔の援助の実際・陰部洗浄
14	清潔・衣生活援助技術Ⅶ 【演習】【実技テスト】	【実技テスト】〈全身清拭および病衣交換〉
15	試験	筆記試験
成績評価法	1. 筆記試験(90%) 2. 授業への参加態度・状況(10%)	
使用テキスト	有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学」[2] 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学」[3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社) 必要に応じて講義資料を配布する	
備考		

科目名	応用実習	担当教員			
学年・学期	2年・後期	時間数	60	単位数	2

授業概要

看護技術のまとめ

授業目標

看護助手として働けるようにする

授業計画

1	感染防止技術Ⅰ	感染防止その防止基礎知識 標準予防策(スタンダードプリコーション) 感染経路予防策
2	感染防止技術Ⅱ	日常の手洗い・衛生的手洗い ガウンテクニック
3	活動・休息援助技術Ⅰ	基本的活動の援助口 ①基本的活動の基礎知識 ②体位
4	活動・休息援助技術Ⅱ	③移動一体位変換・歩行・移乗・移送
5	活動・休息援助技術Ⅲ	・体位変換
6	活動・休息援助技術Ⅳ	・車いす移乗と移送 ・ストレッチャー
7	「癒し」の懸念 「癒し」と看護	「癒し」とは。 「癒し」と看護
8	「癒し」のメカニズム	自律神経系・内分泌系のはたらき 五感への働きかけ
9	「癒し」の種類・方法	アロマセラピー・ヒーリング・音楽療法・タッチング 他
10	「癒し」の体験	ヒーリング
11	「癒し」の体験	アロマセラピー リフレクソロジー
12	「癒し」の実践	整膚
13	「癒し」の実践とまとめ	「癒し」を看護に活かすには
14	環境調整技術	環境の概念 環境構成要素と環境調整
15	環境調整技術	病床環境の調整 リネン類の扱い方、リネン交換の基本
16	環境調整技術	ベッドメイキング
17		
18		

19	環境調整技術	臥床患者のリネン交換 病床環境調整
20		
21		
22	学習支援	看護技術における学習支援 健康生活を支える学習支援 健康状態の変化に伴う学習支援 学習支援の実際
23	清潔・衣生活援助技術	清潔の援助 病床での衣生活の援助
24	清潔・衣生活援助技術	手浴・足浴
25		ケリーパッドを用いた洗髪
26		
27		全身清拭と寝衣交換
28		
29		
30		
成績評価法		
使用テキスト		
備 考		

科目名	日本語会話	担当教員		木原 敦 先生	
学年・学期	2年・後期	時間数	30	単位数	1

授業概要

N2レベルの語彙・文法を使った会話練習、ロールプレイング
JLPT対策 聴解、読解

授業目標

N2レベルの会話をスムーズに
社会人としてや、職場でのアカデミックな語彙を用いた会話の理解

授業計画

1	オリエンテーション プレースメントテスト
2	場面による会話 交通機関 ①
3	" ②
4	病院、薬局①
5	" ②
6	不動産 ①
7	" ②
8	JLPT対策(文字、語彙)+ロールプレイ
9	電話対応 ①
10	" ②
11	JLPT対策(読解)+ロールプレイ
12	緊急事態 ①
13	" ②
14	復習
15	試験
成績評価法	出席率/テスト成績
使用テキスト	シャドーイング日本語を話そう 中級から上級への日本語会話
備 考	

科目名	読解	担当教員		寺戸 弘之 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

- ・身近な内容やテーマ文を読み内容を理解します。
- ・言語タスク、認知タスクを行い、スキルを身につけ読む力を伸ばします。

授業目標

- ・文章を読んで倫理、筆者の思い・意図がつかめるようになる。
- ・N3レベルの読解力を身につける。

授業計画

1	オリエンテーション、読解①
2	読解②
3	読解③
4	読解④
5	読解⑤
6	読解⑥
7	読解⑦
8	読解⑧
9	読解⑨
10	読解⑩
11	読解⑪
12	読解⑫
13	読解⑬
14	読解⑭
15	試験
成績評価法	試験 (50%) 及び講座内の課題・取り組み姿勢 (50%) を合わせて評価する。
使用テキスト	『読む力 初中級』（くろしお出版）
備 考	

科目名	聴解	担当教員		寺戸 弘之 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

- ・ ニュース、文化、職場などで使われている日本語を聞き、内容を理解します。
- ・ トピックの内容確認タスクを行い、テーマについてクラス討議を行います。

授業目標

- ・ 最近のトピックを聞き、使われている日本語を理解する。
- ・ いろいろなテーマについて自ら意見を言えるようになる。

授業計画

1	オリエンテーション、聴解①
2	聴解②
3	聴解③
4	聴解④
5	聴解⑤
6	聴解⑥
7	聴解⑦
8	聴解⑧
9	聴解⑨
10	聴解⑩
11	聴解⑪
12	聴解⑫
13	聴解⑬
14	聴解⑭
15	試験
成績評価法	試験 (50%) 及び講座内の課題・取り組み姿勢 (50%) を合わせて評価する。
使用テキスト	NHKやさしい日本語で書いたニュース等
備 考	

科目名	産業ビジネスⅡ	担当教員		島村定充 先生	
学年・学期	2年 前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

観光地の分布、立地、観光資源、観光産業との関わり、観光地の環境保全や世界遺産などに留意しつつ、温泉、海浜、避寒・避暑、都市、田園、山岳など、観光活動が自然地理的資源、人文地理的資源を利用して誕生・発展してきたかを学ぶ。

授業目標

日本には多くの観光地が存在する。講義の内容に留まらず、興味を持った観光地を自ら調べ、説明することができるようになる。

授業計画

1	オリエンテーション、日本全土について①
2	日本全土について②
3	北海道地方の地理歴史
4	東北地方の地理歴史（青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島）
5	関東地方の地理歴史（群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川）
6	中部地方の地理歴史（新潟・富山・石川・福井・岐阜・滋賀）
7	中部地方の地理歴史（長野・山梨・静岡・愛知）
8	関西地方の地理歴史（京都・奈良）
9	関西地方の地理歴史（三重・和歌山・大阪・兵庫）
10	中国地方の地理歴史（鳥取・島根・岡山・広島・山口）
11	四国地方の地理歴史（香川・徳島・愛媛・高知）
12	九州地方の地理歴史（福岡・佐賀・長崎・熊本）
13	九州地方・沖縄の地理歴史（大分・宮崎・鹿児島・沖縄）
14	演習
15	試験
成績評価法	受講態度30%、中間試験30%、期末試験40%を目安に総合的に評価
使用テキスト	必要に応じてレジュメを配布する
備 考	受講者の理解度により、講義の順番や重点を変えることがある。

科目名	社会福祉概論	担当教員		中條 秀憲 先生	
学年・学期	2年・前期	時間数	30	単位数	1

授業概要

社会福祉の基本を学び、日本の福祉制度や支援の仕組みを理解します。身近な事例やグループワークを通じて学びます。

授業目標

1. 社会福祉の基本を理解する
2. 日本の福祉制度を学ぶ
3. 福祉の課題について考える

授業計画

1	社会福祉とは？-福祉の基本概念を学ぶ-
2	日本の社会福祉制度の全体像-社会保障との関係-
3	高齢者福祉-介護保険と高齢者支援-
4	障害者福祉-障害者の生活と就労支援-
5	児童福祉-子どもの権利と支援制度-
6	生活困窮者支援-生活保護と自立支援-
7	医療と福祉-医療制度と福祉の連携-
8	福祉の現場見学・事例学習-実際の支援を知る-
9	国際比較-日本と世界の福祉制度-
10	社会福祉の課題と倫理-支援と自己責任-
11	地域福祉とボランティア-地域のつながりと支え-
12	未来の福祉-AI・テクノロジーの活用-
13	まとめとディスカッション-福祉の可能性を考える-
14	実践演習(ロールプレイ)-福祉の現場-
15	試験
成績評価法	授業参加・発言30%、小テスト・課題40%、レポート30%
使用テキスト	(配布)
備 考	

科目名	ホスピタリティⅡ	担当教員		学科内部教員	
学年・学期	2年・後期	時間数	15	単位数	1

授業概要

「ホスピタリティⅠ」で学んだ事を踏まえ、さまざまな場面におけるホスピタリティと日本文化のひとつである「おもてなし」の心を理解する。

授業目標

さまざまな場面におけるホスピタリティを学び、実体験を通して日本文化のひとつである「おもてなし」の理解を深める。

授業計画

1	講義オリエンテーション
2	「ホスピタリティ」「サービス」「おもてなし」の概念
3	体験学習（Ⅰ）
4	体験学習（Ⅱ）
5	体験学習（Ⅲ）
6	体験学習（Ⅳ）
7	体験学習の発表
8	まとめ
成績評価法	普段の授業を平常点100として評価する。
使用テキスト	特になし
備 考	